HONDA
汎 用 製 品

耕うん機

FFV300

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

一般公道での走行はできません。
(本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。)
夜間作業はできません。
(本機は作業灯が装備されていません。)
水田での使用はできません。
(本機は耐泥水構造になっていません。)

取扱説明書について
この取扱説明書は
- 作業をするときは、必ず携帯してください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう... 4
安全ラベル ... 11

サービスと保証について ... 12

各部の名称と取扱いをおぼえましょう ... 13
エンジンスイッチ ... 15
エンジン回転調整レバー ... 15
始動グリップ ... 16
主クラッチレバー ... 16
変速レバー ... 17
デフロックレバー ... 17
燃料コックレバー ... 18
前車輪 ... 19
ハンドル高さ調整ダイヤル ... 20
アタッチメント取付け部 ... 20

作業前に点検・調整しましょう ... 21
作業前の点検 ... 21
ハンドルの準備 ... 22
燃料の点検 ... 24
カセットボンベの取付け・取外し ... 25
エンジンオイルの点検 ... 30
エアクリーナー（空気清浄器）の点検 ... 32
耕うん深さ（耕深）の調整 ... 33
耕うん幅の調整 ... 34
後車輪取付けピンの点検 ... 36
耕うん爪（ロータリ）、ハンドル高さ調整ダイヤルの締付け点検 ... 37

エンジンのかけかた ... 38

運転操作のしかた 43
変速 43
運転 45
耕うん作業 48

エンジンのとめかた 49

定期点検を行いましょう 53

点検・整備のしかた 54
エンジンオイルの交換 54
エアクリーナー（空気清浄器）の清掃 57
クラッチケースオイルの点検 58
変速機オイルの点検 59
エンジン回転調整ケーブルの点検・調整 60
主クラッチケーブルの調整 61
デフロックレバーケーブルの調整 62
耕うん爪（ロータリ）の点検・交換 63

使用後の手入れ 67

長期間使用しないときの手入れ 68

故障のときは 70

車への積載のしかた 72
車の荷台への積載 72

主要諸元 74

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

• 作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が開いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

• カセットボンベの取扱い

- カセットボンベに記載されている警告内容をよくお読みください。
- 使用するカセットボンベは、「東邦金属工業（株）」と表示があるカセットこんろ用ボンベをご使用ください。
- カセットボンベは、本機に付属するボンベケースに正しくセットしてご使用ください。
  カセットボンベの凹部を下側ボンベケースの凸部に合わせない状態で本機に取付けると、ガス漏れを起こすおそれがあります。
  (25 頁参照)
- カセットボンベをボンベケースなしで、本機に直接取付けないでください。ガス漏れを起こすおそれがあります。
- 本機からカセットボンベを取外した場合は、必ずカセットボンベ付属のキャップを装着してください。カセットボンベの先端ノズルを押し込むとガスが噴出します。
- カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こすおそれがありますので、次のことをお守りください。
  - カセットボンベを火の中に投げ入れないでください。
  - カセットボンベを４０℃以上になる車内に置かないでください。
  - カセットボンベを炎天下に置かないでください。
- カセットボンベに錆や変形がある場合は、使用しないでください。ガス漏れを起こすおそれがあります。
- 本機を使用しないときは、カセットボンベを取外してください。

警告

- カセットボンベを保管する場合は、カセットボンベに付属するキャップをつけて４０℃以下の湿気の少ない場所に保管してください。思わぬ事故の原因になります。

・作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - 急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - 傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向（等高線方向）に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - 傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分に落とし、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。
  - 傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - 急傾斜、溝または畦越えを行うときは、本機、作業機の重量に十分耐えられるアユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。

警告

- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所で確実に固定してください。
- 爪（ロータリ）は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  - エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - 作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外して行ってください。（30 頁参照）また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - 作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
  - 作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外し（30 頁参照）、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。
- 液化ブタンは非常に引火しやすく、また0℃以上では気化するため、引火した場合は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。カセットボンベを交換するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - カセットボンベを交換するときやボンベケースの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
- カセットボンベが入ったボンベケースを本機に取付けるときは、口金部にゴミや異物がないことを確認してください。
- 口金部に泥や砂などが付着している場合は、綿棒などで口金 O リング部を傷めないように拭き取ってください。口金 O リングを傷めると配管内にたまっているガスが噴出し、引火するおそれがあります。

警告

- 交換用カセットボンベは炎天下に置かないでください。カセットボンベに付属するキャップを取付けて、４０℃以下の日陰で保管してください。
  正しく保管しない場合、カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 耕うん作業時は爪回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

警告

• 作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラー（消音器）は非常に熱くなっています。特にマフラーは熱くなっているので、手で触れたりカセットボンベ 等をのせないでください。やけどをしたり、カセットボンベが爆 発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- カセットボンベを本機から取外し、カセットボンベに付属するキャップを取付けて４０℃以下の日陰に置いてください。カセットボンベを本機にセットしたまま炎天下に放置すると、カセットボンベが爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- カセットボンベを外しても、本機の配管内にガスが残っています。作業が終わったら配管内に残っているガスを使いきってください(52 頁参照)。配管内に残ったガスでもエンジンは始動でき、主クラッチレバーの操作により、爪（ロータリ）が回転し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- カセットボンベを捨てるときは、カセットボンベ内のガスを完全に使い切ってから、お住まいの地域の取り決めにしたがって捨ててください。ガスが残ったまま捨てるとゴミ収集車の火災の原因となるおそれがあります。
- ボディカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

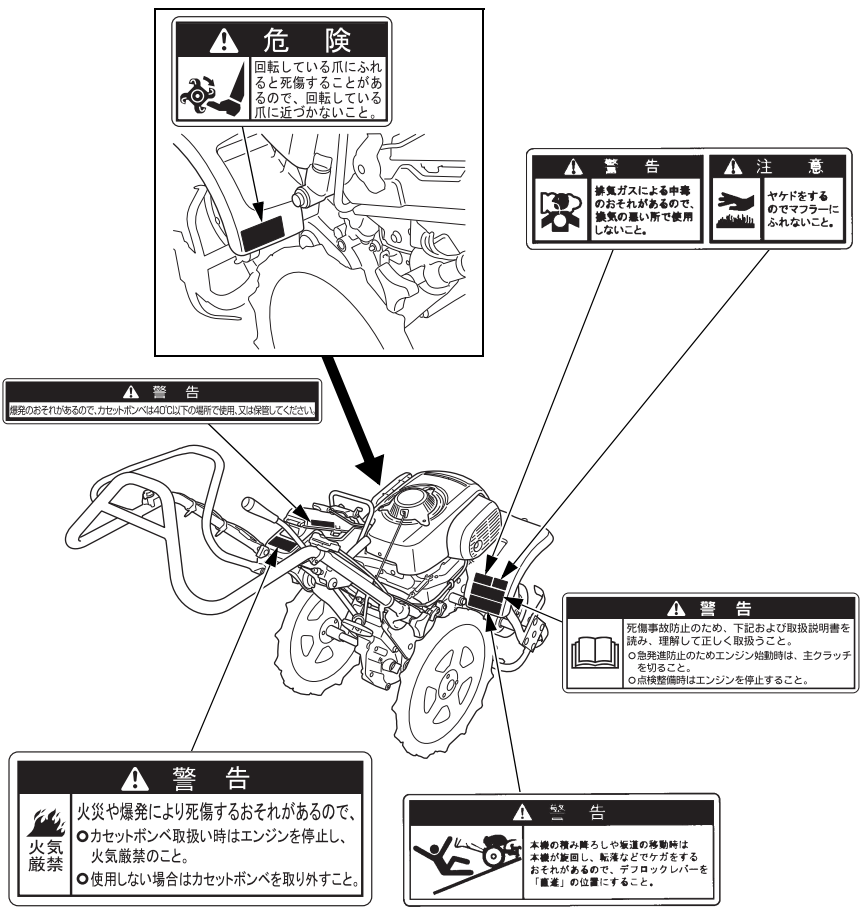
警告

・積み降ろしおよび運搬時

・本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - 荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - 積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - 積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
  - 使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に十分耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのある車輪幅以上の幅が十分あるものを使用してください。
  - アユミ板の傾斜角度が 15 度以下になるような長さのものを使用してください。（目安として荷台の高さの４倍の長さ）
  - アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
  - 耕うん爪（ロータリ）装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
  - 積み込みは前進で、積み降ろしは後進で行ってください。
  - デフロックレバーはかならず “直進” にしてください。
  - アユミ板に乗る前に、車輪とアユミ板が一直線であることを確認してください。
  - 本機は 1 速でゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを絶対に放さないでください。
  - 積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れてください。
  - カセットボンベを取外してください。（29 頁参照）
  - 荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



※ フレーム号機および銘板の表示位置は
14 頁をご覧ください。

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

安全鑑定

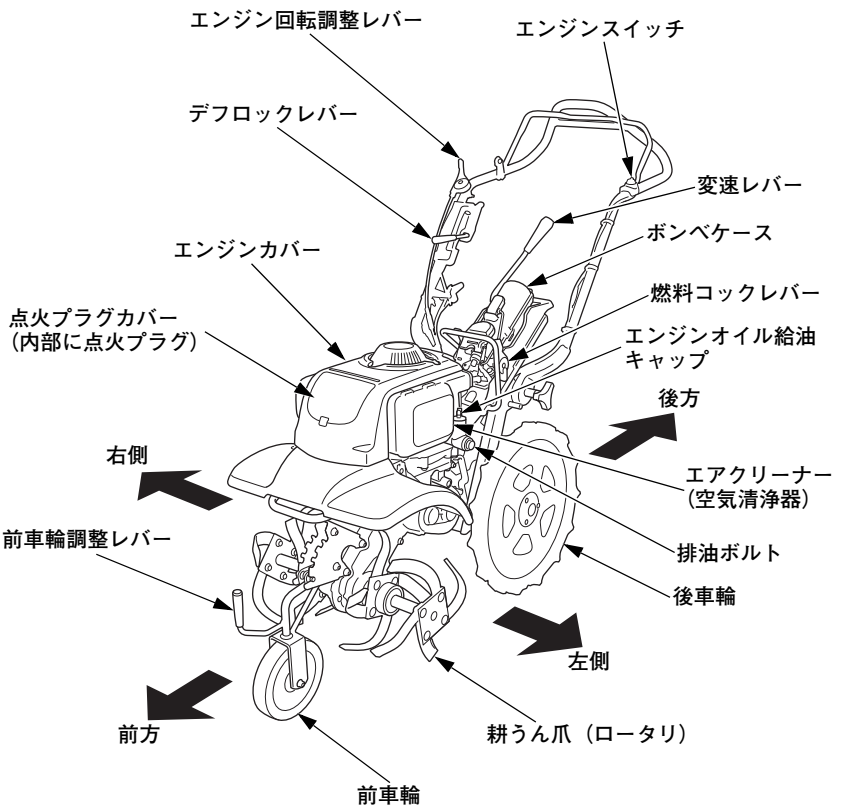
安全鑑定型式名
ホンダ FFV300

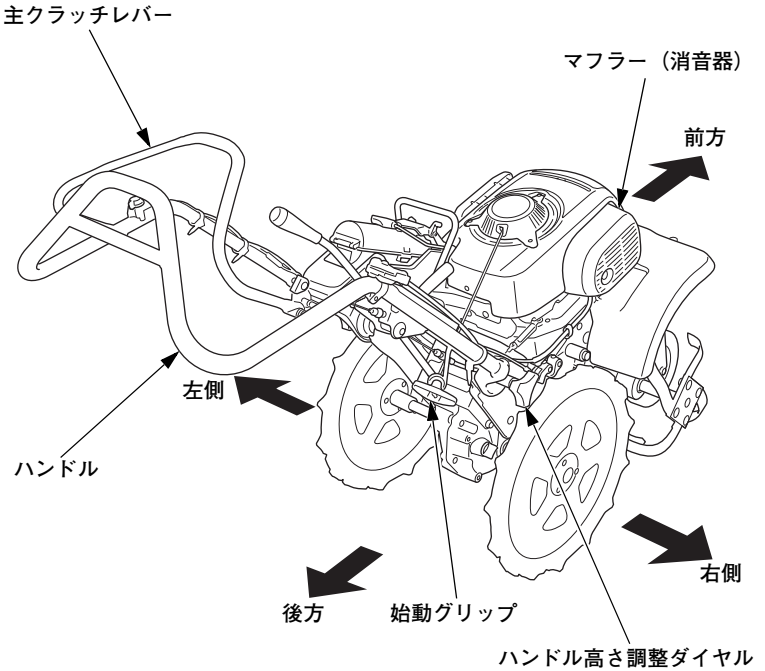
安全鑑定証票

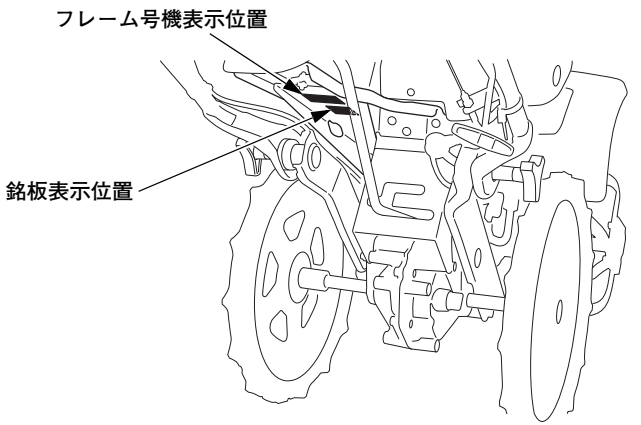


（参考：ホンダ FFV300）

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

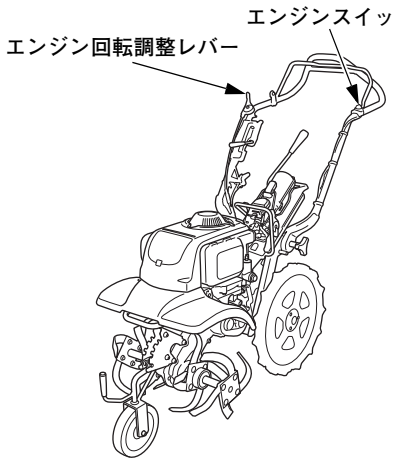


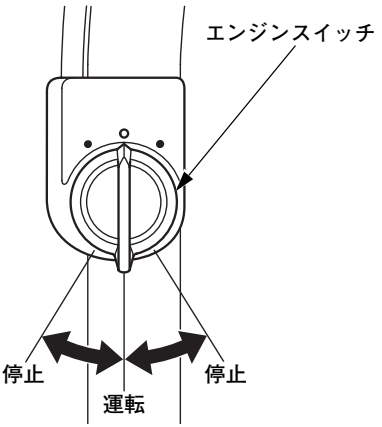

主クラッチレバー
マフラー（消音器）
前方
左側
ハンドル
後方
始動グリップ
右側
ハンドル高さ調整ダイヤル


フレーム号機表示位置
銘板表示位置

エンジンスイッチ

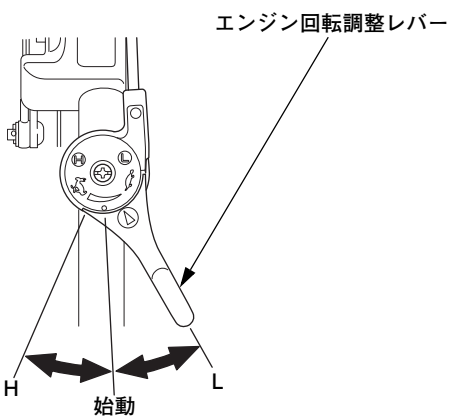
エンジンスイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。





エンジン回転調整レバー

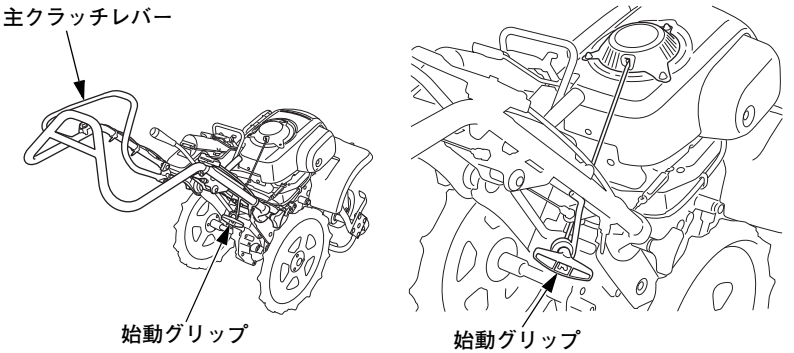
エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



H… エンジン回転が上がります
始動 … エンジンを始動するときの位置です
L… エンジン回転が下がります

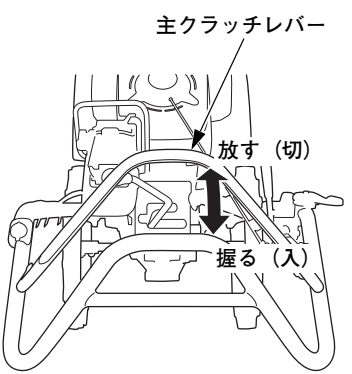
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



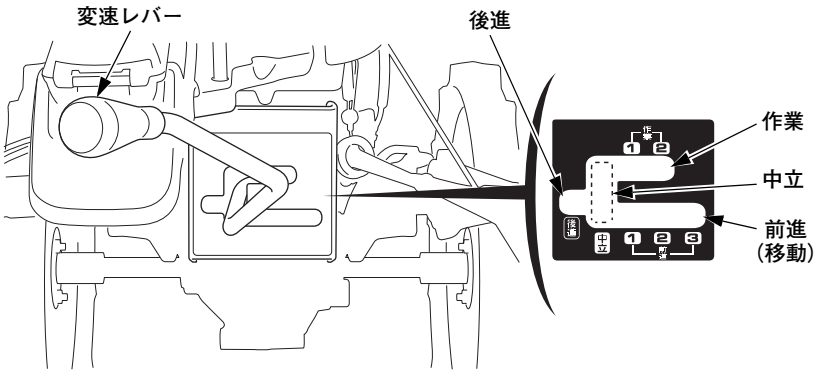
主クラッチレバー

主クラッチは、車輪および耕うん爪（ロータリ）への動力を断続する装置です。
主クラッチレバーを握ると動力が伝わり、放すと動力が切れます。



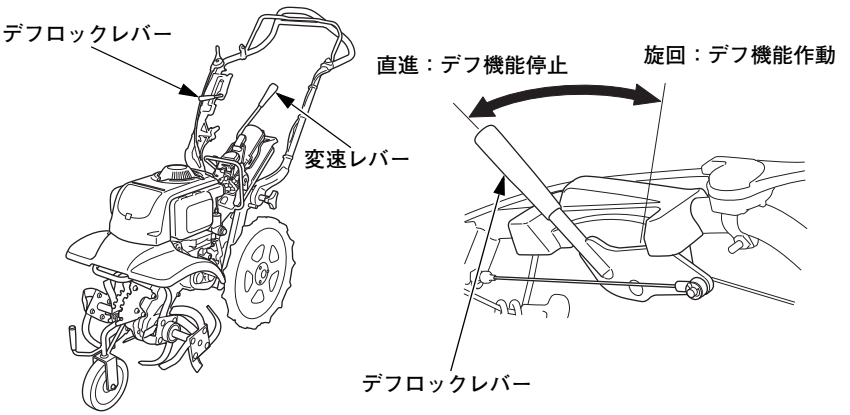
変速レバー

本機の速度を変えるときに操作します。
作業位置でのみ耕うん爪（ロータリ）が回転します。



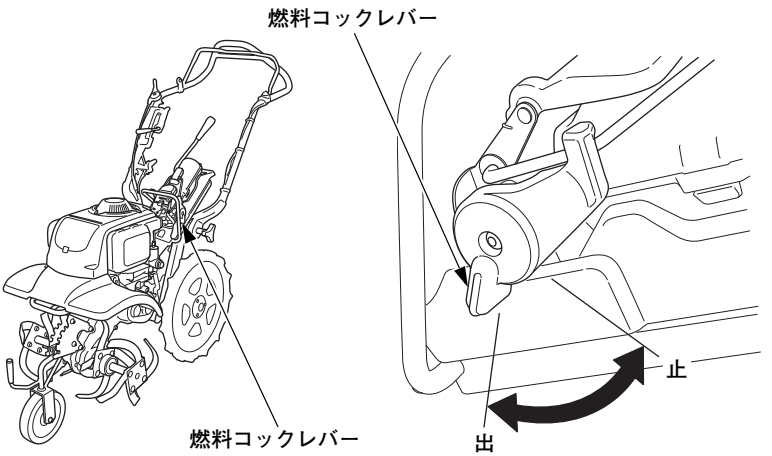
デフロックレバー

デフ機能を作動、停止するレバーです。
“旋回”：デフ機能が働き、旋回性が向上します。
“直進”：デフ機能がロックされ、直進性が向上します。



燃料コックレバー

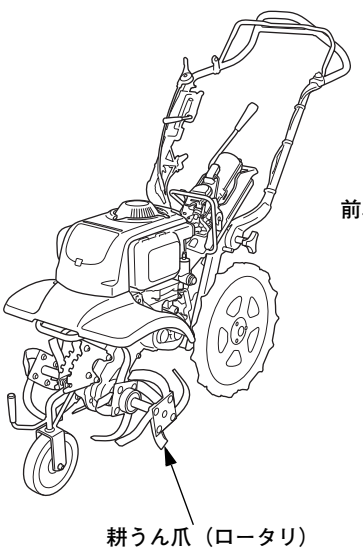
カセットボンベの燃料を出したり止めたりするときに操作します。

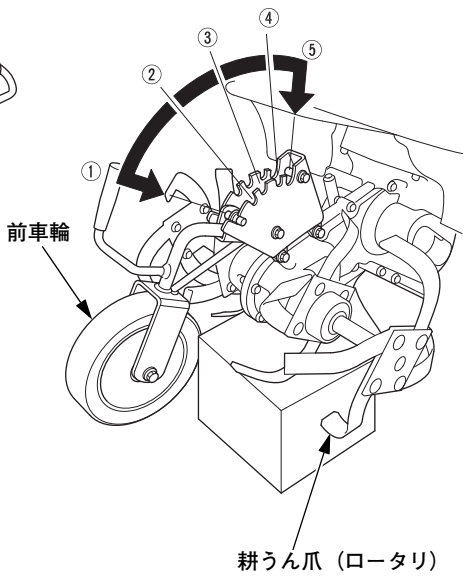


前車輪

前車輪の高さは、移動や耕うん深さ（耕深）により 5 段階に調整できます。
（調整のしかたは 33 頁参照）

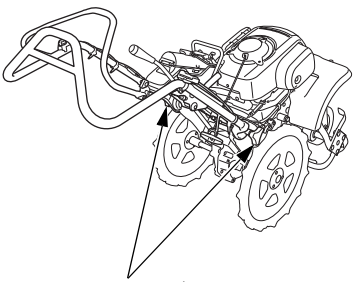
① ・・・・・・・移動するときの位置（地面よりロータリが約 40 mm アップ）
② ・・・・・・・耕うん深さを最も浅くする（耕深約 20 mm）
③ ・・・・・・・耕うん深さを浅くする（耕深約 60 mm）
④ ・・・・・・・耕うん深さを深くする（耕深約 120 mm）
⑤ ・・・・・・・耕うん深さをより深くする（耕深約 160 mm）

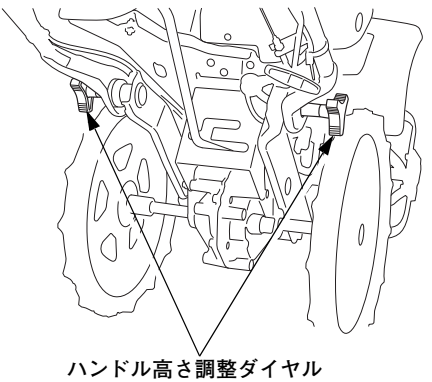




ハンドル高さ調整ダイヤル

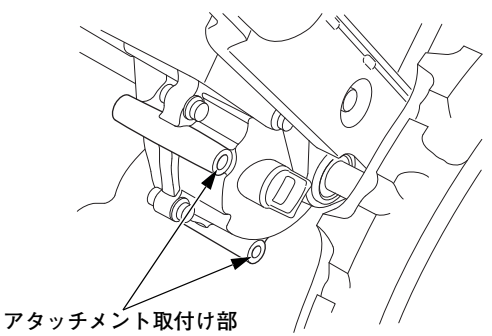
ハンドルの高さを作業内容や運転者の身長に合わせるダイヤルです。ダイヤルで締付けて固定します。
ハンドルの高さを 2 段階に調整できます。（調整は 22、23 頁参照）





アタッチメント取付け部

アタッチメントを取付けるときに使用します。



作業前に点検・調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平（耕うん爪と後車輪が接地した状態）にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

エンジンの周りや下側にオイルの漏れがないことを確認してください。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり ・・・・・・・・・・・使用する燃料が正しいこと。(24 頁参照) オイルの量（30 頁参照）が規定量入っていること。
  ガス漏れ（臭気）がないこと。
  オイルの漏れがないこと。
  エンジン周りのゴミ、ワラ等の付着がないこと。
- 主クラッチレバー、
  エンジン回転調整レバー、
  デフロックレバーの
  作動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・レバーの遊び量（60 ～ 62 頁参照）が規定どおりであること。
  引っかかりがないこと。
  スムーズに作動すること。
- 各部の締付け ・・・・・・・・・・・ハンドルにゆるみ、ガタがないこと。
  ボルト、ナットにゆるみがないこと。
- 配線、ケーブル類 ・・・・・・・被覆の破れ、切れがないこと。
  配線、ケーブルのはさまりがないこと。
- エンジンの始動、停止 ・・・エンジンを始動し、異音がないこと。(始動手順は 38 ～ 42 頁参照)
  エンジンスイッチで確実に停止すること。
  (停止手順は 49 ～ 52 頁参照)
- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

ハンドルの準備

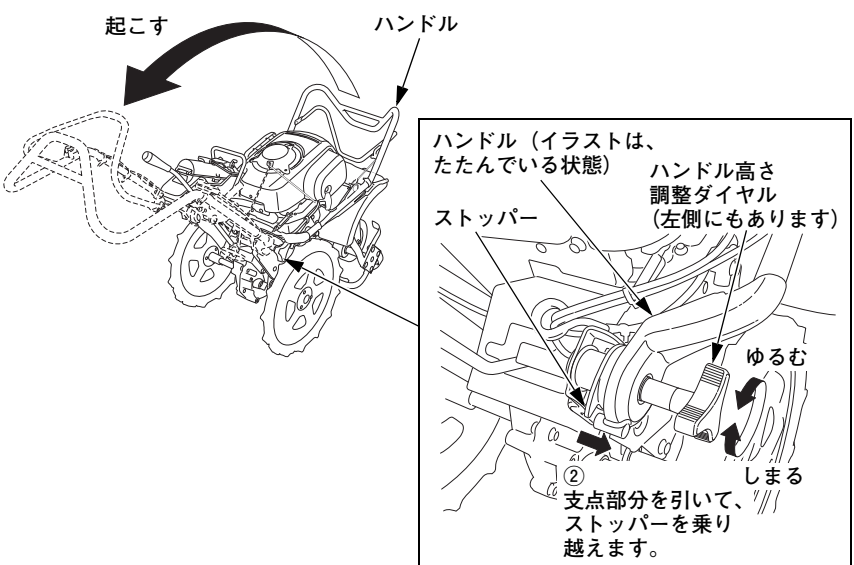
ハンドル高さ調整ダイヤルをゆるめてハンドルを起こし、使いやすい高さに合わせて固定してください。
ハンドル高さを、作業内容や運転者の身長に合わせ 2 段階に調整できます。ハンドルの高さ調整のみ行う場合は、手順①、③、④を行ってください。

⚠注意

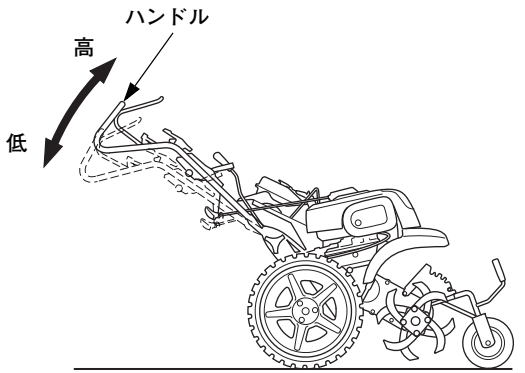
ハンドルの準備は平坦な場所でエンジンを停止し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。（30 頁参照）

ハンドルの起こしかた

① 左右のハンドル高さ調整ダイヤルをゆるめます。
② 右側のハンドル支点部分を外側に引きながら、ハンドルを起こします。



③ ハンドルを使いやすい高さに合わせます。
④ 左右のハンドル高さ調整ダイヤルを確実に締付けます。



取扱いのポイント

- ハンドルのガタがないようにハンドル高さ調整ダイヤルは確実に締付けてください。
- ハンドルは上下に揺すりながらハンドル高さ調整ダイヤルを回すと固定しやすくなります。

- ハンドルをたたむときは手順①、②、④を逆の手順で行い、ハンドル高さ調整ダイヤルを確実に締付けてください。

燃料の点検

⚠警告

液化ブタンは非常に引火しやすく、また０℃以上では気化するため、引火した場合は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
カセットボンベを交換する場合は
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ボンベケースにセットした状態で本機に取付けてください。
・錆や変形があるカセットボンベは使用しないでください。

カセットボンベを振って残量が少ないようであれば交換用のカセットボンベを準備してください。

使用燃料：東邦金属工業（株）製カセットこんろ用ボンベ（液化ブタン）

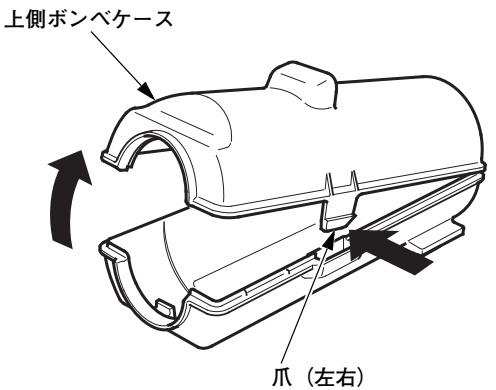
⚠注意

必ず「東邦金属工業（株）」と表示のあるカセットこんろ用ボンベを使用してください。表示のないカセットボンベを使用すると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

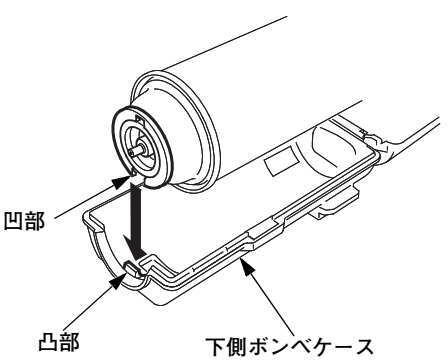
カセットボンベの取付け・取外し

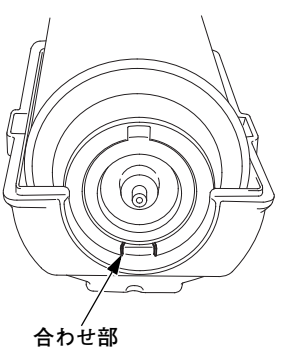
カセットボンベの取付け

1. 上側ボンベケースの側面にある左右の爪を押しながら、上側ボンベケースを開けます。

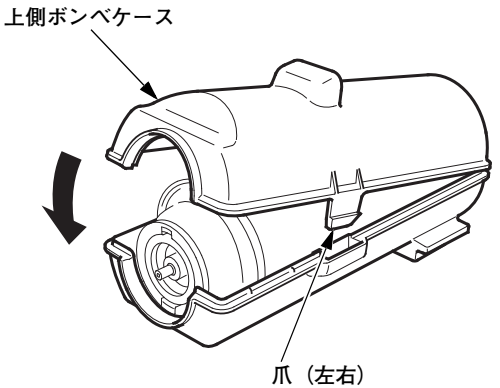


2. カセットボンベ付属のキャップを外し、カセットボンベの凹部を下側ボンベケースの凸部に確実に合わせて、カセットボンベをボンベケースにセットします。





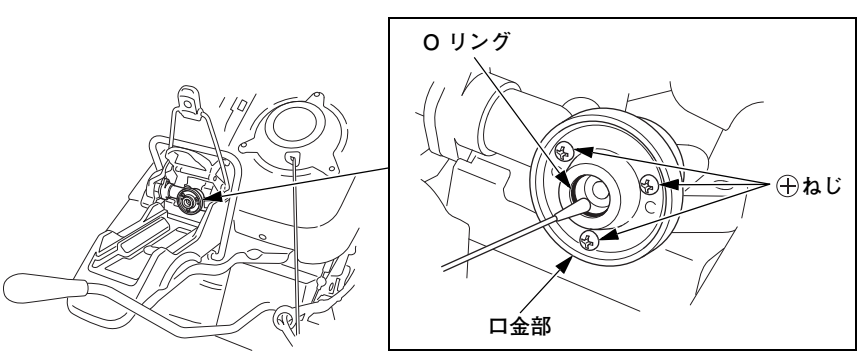
3. 上側ボンベケースを閉めて、上側ボンベケースの左右の爪を確実に組付けます。



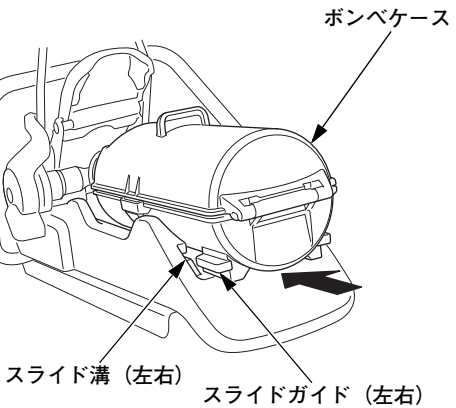
4. 口金部の汚れを点検します。
口金部に泥や砂などの汚れが付着している場合は、綿棒などで口金部の O リングを傷つけないように拭き取ってください。O リングに損傷や亀裂がある場合はお買いあげ販売店にお問い合わせください。

⚠警告

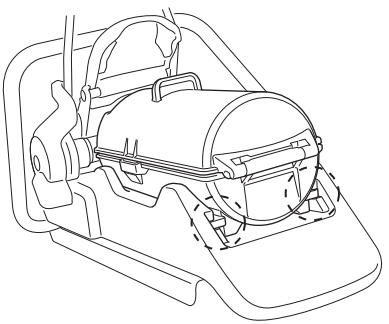
口金部を清掃する場合は、口金部の⊕ねじをゆるめて分解したり、O リングを傷つけないでください。配管内にたまっているガスが噴出し、引火するおそれがあります。



5. ボンベケースのスライドガイド（左右）を本機のスライド溝（左右）に合わせて、ボンベケースを矢印方向に奥までセットします。

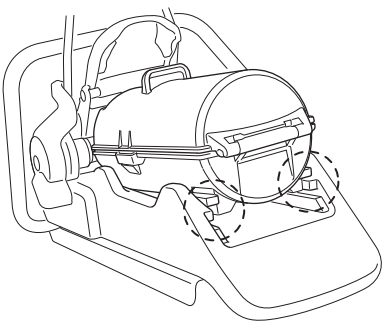


〈正〉



スライド溝にセットされています。

〈誤〉

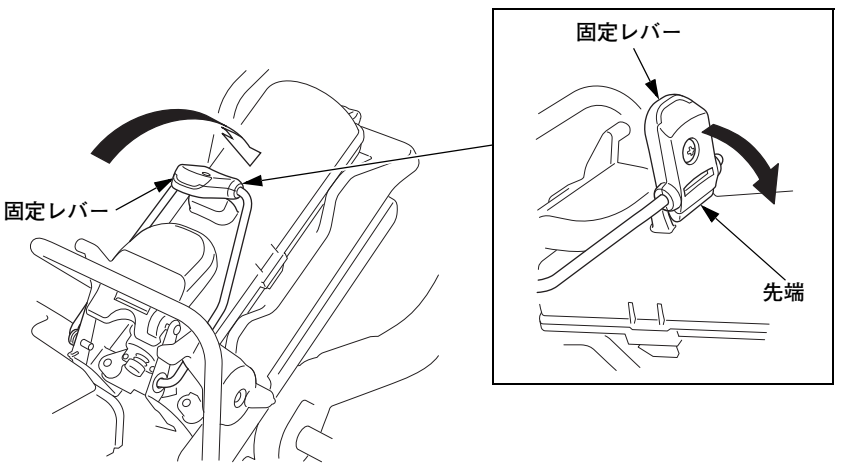


スライド溝にセットされていません。

6. 固定レバーの先端をボンベケースに引っかけボンベケースを固定します。

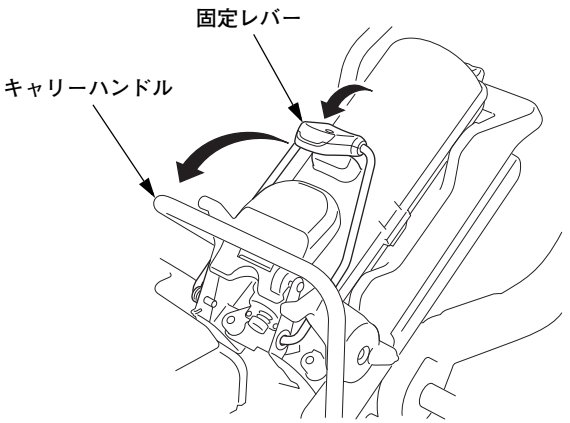
⚠警告

ボンベケースは、固定レバーで確実に固定してください。固定が悪いと振動でボンベケースが外れ、ガスが漏れるおそれがあります。

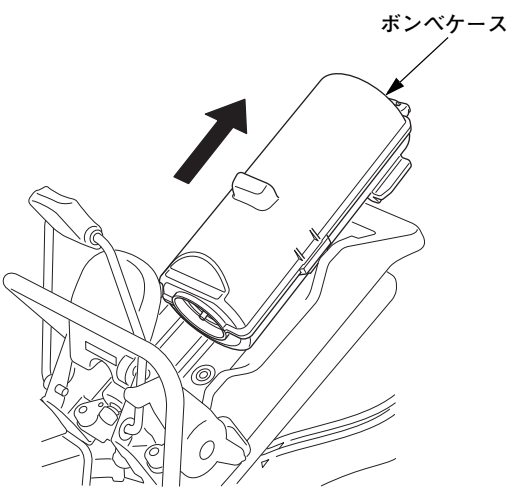


カセットボンベの取外し

1. エンジンを停止し、燃料コックレバーを “止” に合わせます。(51頁参照)
2. 固定レバーを起こし、キャリーハンドルに当たるまで前方に持ち上げます。



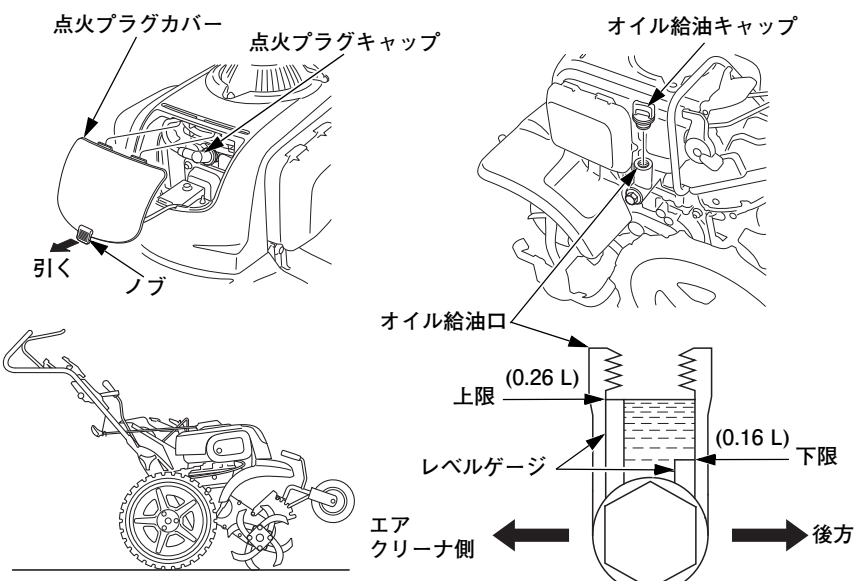
3. 固定レバーを持ち上げたまま、ボンベケースを矢印の方向にスライドさせ取外します。



エンジンオイルの点検

点検

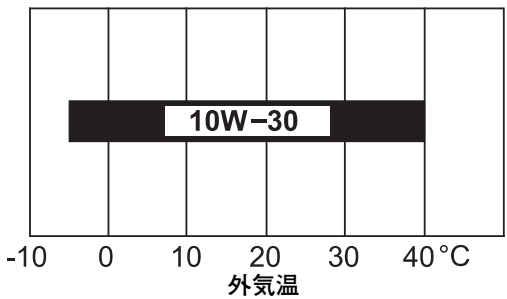
1. エンジンを停止させ、本機からカセットボンベを取外し（29 頁参照）、換気の良い場所で「配管内の残留ガス使いきり」（52 頁参照）を行います。
2. エンジンカバーの前面にある点火プラグカバーのノブを引っぱって外し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外します。
3. 平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリ）と後車輪が接地した状態にしてオイル給油キャップを外し、オイル給油口内側のレベルゲージで点検します。油面が下限に近いときには、上限までオイルを補給してください。（31 頁参照）
4. エンジンオイルの汚れ、変色がないことを確認します。汚れや変色が著しい場合は、エンジンオイルを交換してください。（交換時期、方法は 54 ～ 56 頁参照）
5. 点検後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
6. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。
7. 点火プラグカバーをエンジンカバーへ取付けます。



補給

- 少ないときには、平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリ）と後車輪が接地状態にして、新しいエンジンオイルを上限まで補給します。
- 補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）
  または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表に
もとづきお使いください。



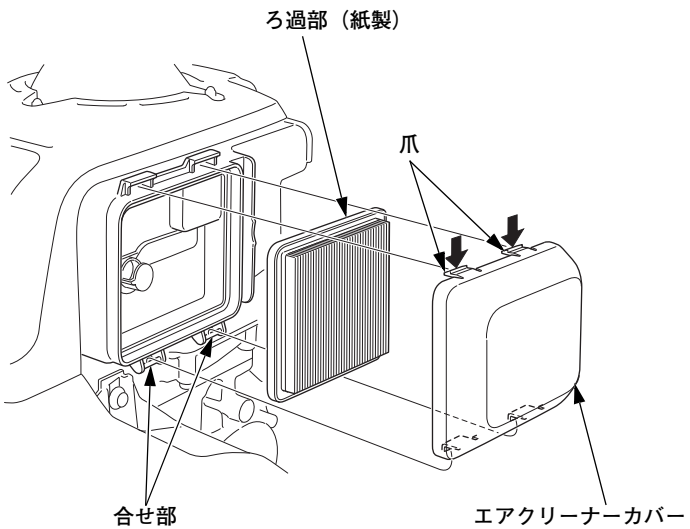
エンジンオイル量：0.26 L

取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナー（空気清浄器）の点検

・エアクリーナーカバーを外し、ろ過部（紙製）の汚れがないことを確認します。
　エアクリーナーカバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を離して行ないます。
・汚れている場合は清掃してください。（清掃時期、方法は 57 頁参照）



取扱いのポイント

・エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
・エアクリーナーカバーやろ過部（紙製）を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

耕うん深さ（耕深）の調整

耕うん深さ（耕深）は前車輪を前方に引き、上に持ち上げて調整します。

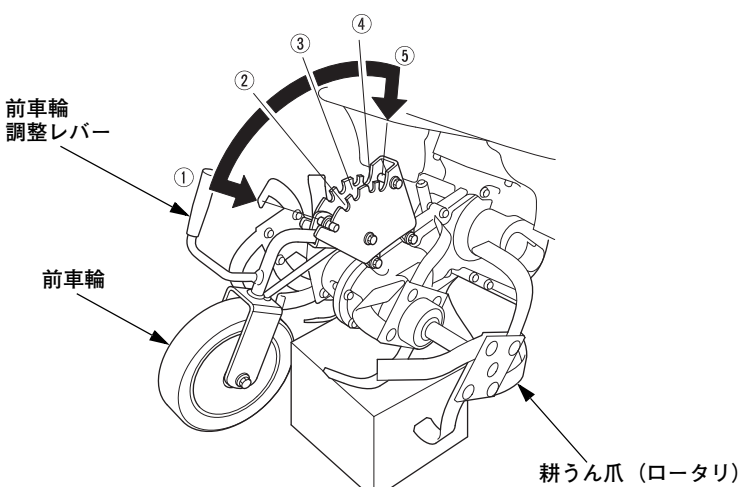
⚠注意

調整は平坦な場所でエンジンを停止し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。（30 頁参照）

調整のしかた

1. 耕うん爪（ロータリ）軸の下に台を置くなどして本機が動かないように固定します。
2. 前車輪調整レバーを握りながら前方に引き、上に持ち上げて適正なくぼみ（①～⑤）に確実にはめ込みます。

① ····· 移動するときの位置（地面よりロータリが約 40 mm アップ）
② ····· 耕うん深さを最も浅くする（耕深約 20 mm）
③ ····· 耕うん深さを浅くする（耕深約 60 mm）
④ ····· 耕うん深さを深くする（耕深約 120 mm）
⑤ ····· 耕うん深さをより深くする（耕深約 160 mm）



・土が柔らかくて耕うん爪（ロータリ）が潜ってしまうときや土が硬いときには、耕うん深さを浅くしてください。

耕うん幅の調整

耕うん幅の標準は、幅広です。耕うん幅を狭くする場合は、外側の耕うん爪（ロータリ）を外して行います。

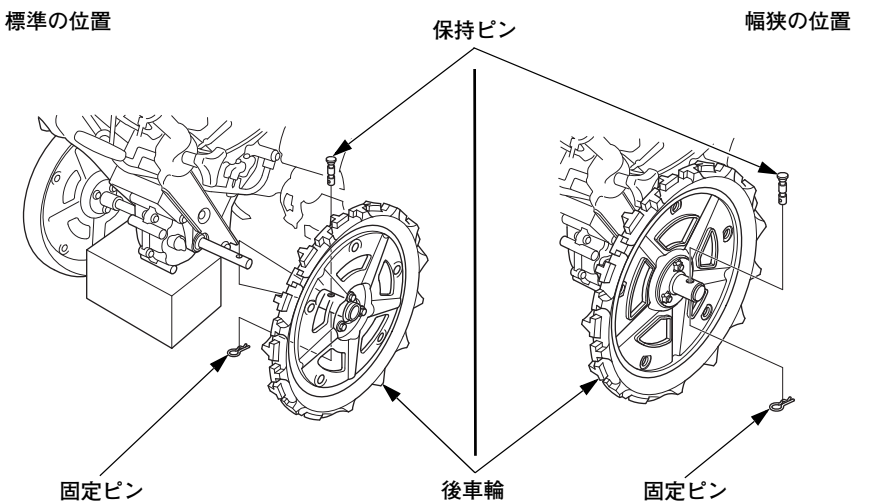
・耕うん幅と後車輪の車輪幅は、広狭を同じにしてください。また、左右も広狭を同じにしてください。
・耕うん幅を狭くすると、逆回転する外側の耕うん爪（ロータリ）が外されるため、正回転のみの耕うんとなります。

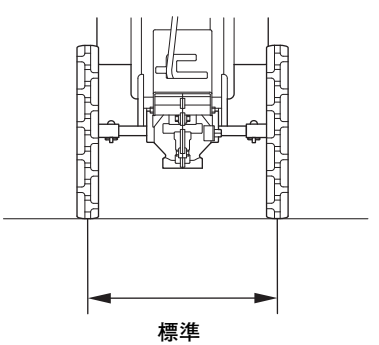
⚠注意
・調整は、平坦な場所でエンジンを停止し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。(30 頁参照)
・耕うん幅の調整は、厚手の手袋を着用して行ってください。

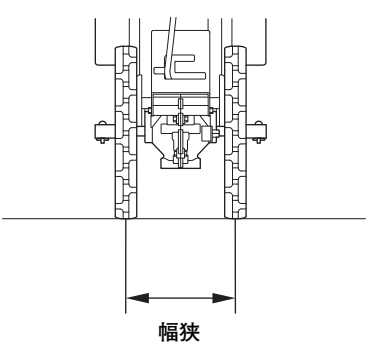
1. 前車輪を「移動するときの位置」にします。(33 頁参照)
2. 外側の耕うん爪（ロータリ）を取外し、または取付けます。取外しは 64 頁を参照し、取付は 65、66 頁を参照してください。
3. 前車輪を「移動するときの位置」以外にして、耕うん爪（ロータリ）を接地させます。
4. 後車輪の車輪幅を耕うん幅に合わせて変更します。(35 頁参照)

後車輪の車輪幅変更：

1. 後車輪軸の下に台を置くなどして車輪を浮かせて本機が動かないように固定します。
2. 固定ピン、保持ピンを抜き車輪を外し、車輪を反転させて、保持ピン、固定ピンで固定します。逆側の車輪も同様に反転させます。

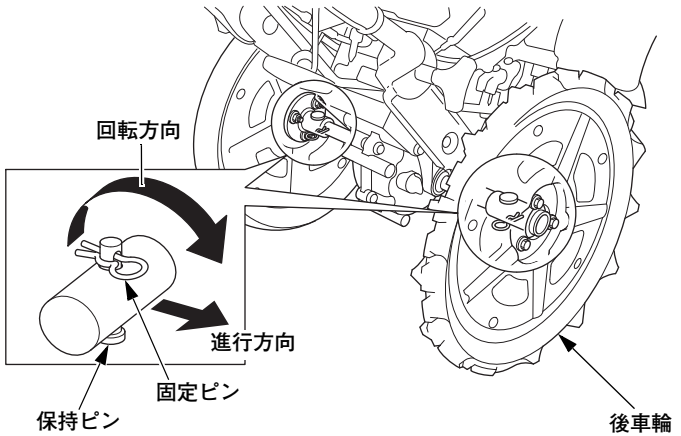






後車輪取付けピンの点検

保持ピン、固定ピンが確実に取付けられていることを確認します。
保持ピンは、異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。



耕うん爪（ロータリ）、ハンドル高さ調整ダイヤルの締付け点検

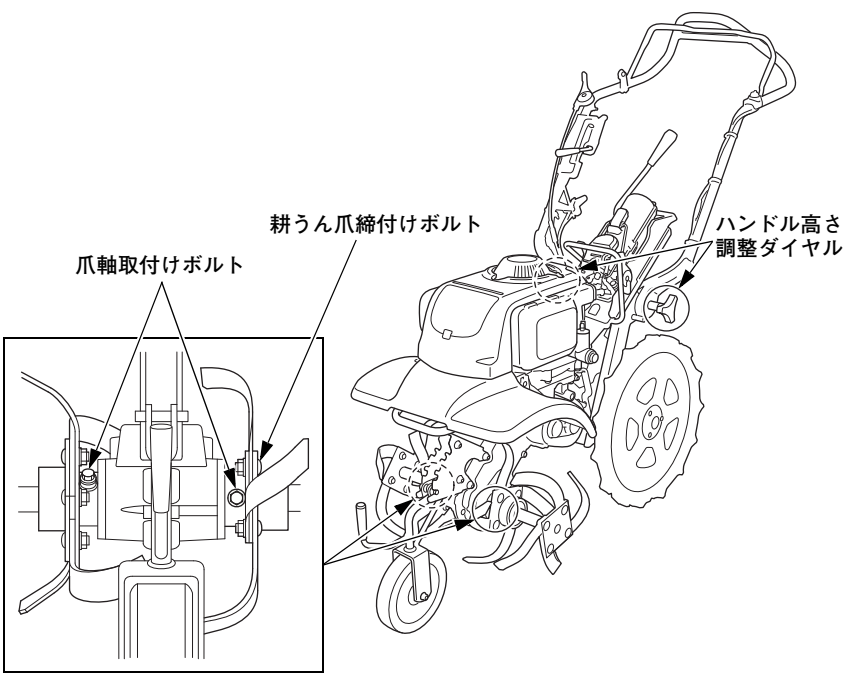
⚠注意

- 点検は平坦な場所でエンジンを停止し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。（30 頁参照）
- 耕うん爪（ロータリ）部の点検、締付けは厚手の手袋を着用して行ってください。

締付け箇所のゆるみやガタがないことを確認します。ゆるみやガタがあれば確実に締付けてください。

締付け箇所

- 耕うん爪締付けボルト
- 爪軸取付けボルト
- ハンドル高さ調整ダイヤル



エンジンのかけかた

⚠警告

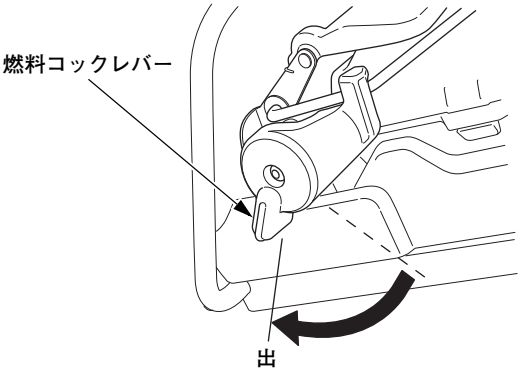
- 本機からガス漏れ（臭気）がないことを確認してください。ガス漏れ（臭気）がある場合はカセットボンベを取外し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラーの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチレバーが “切”、変速レバーが “中立” になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

取扱いのポイント

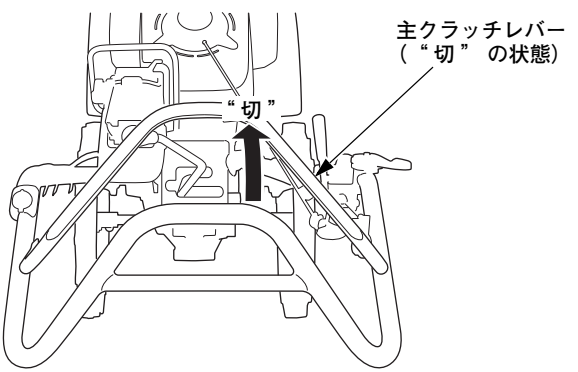
本機は、必ず外気温度 5 ℃以上でご使用ください。ブタンガスの特性上、外気温度 5 ℃未満の場合は、エンジンが始動できないことがあります。エンジンが始動できなかった場合、外気温度上昇時にエアクリーナー周辺よりガスの臭いがすることがあります。

1. カセットボンベをセットしたボンベケースを、本機に正しく取付けてください。（25 ～ 28 頁参照）

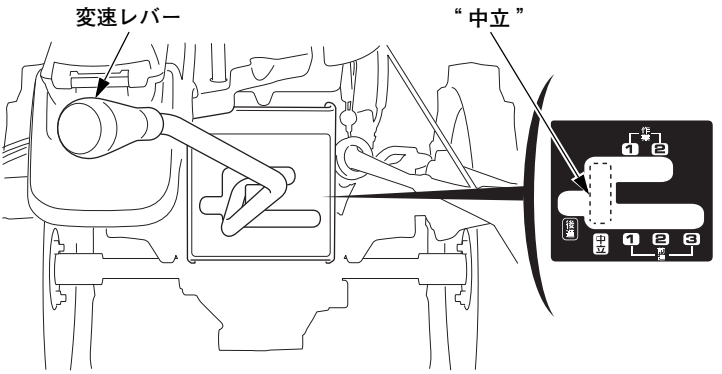
2. 燃料コックレバーを “出” にします。



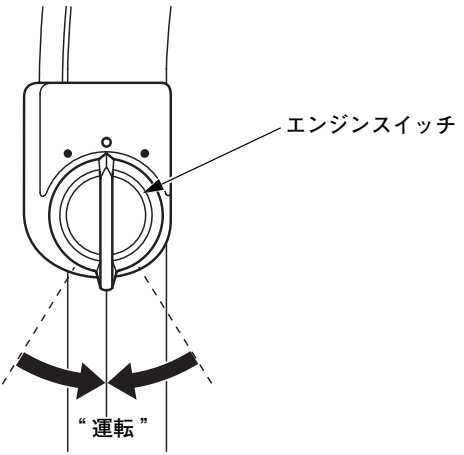
3. 主クラッチレバーが “切” になっていることを確認してください。



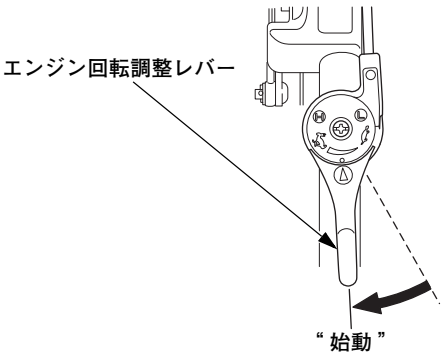
4. 変速レバーが “**中立**” になっていることを確認してください。



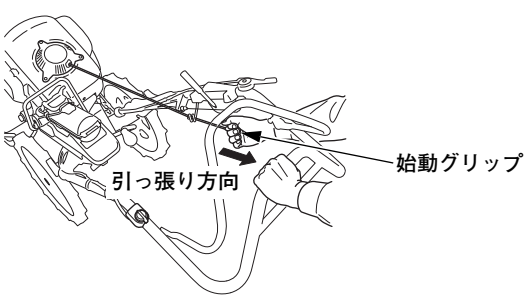
5. エンジンスイッチを “**運転**” の位置にします。



6. エンジン回転調整レバーを “**始動**” の位置に合わせます。



7. 始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。
次に矢印の方向に強く引っ張ります。
始動グリップは手を添えて静かに戻してください。



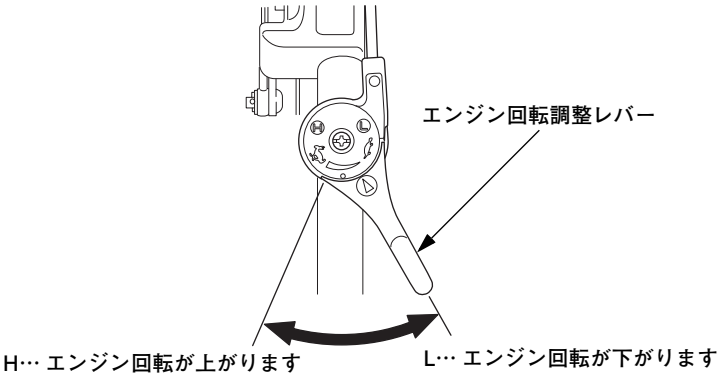
⚠注意

始動グリップを引くときは、主クラッチレバーを握らないでください。また、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

8. エンジンが始動します。
9. エンジン回転は、作業に応じて調整してください。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず “安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう” の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

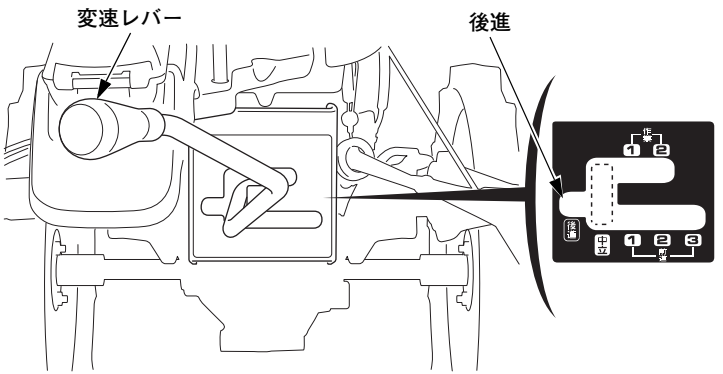
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

変速

- 変速レバー
  変速表の適応作業に合わせ変速位置を選びます。
  速度が速すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上がり等に弊害が出ます。
- 変速の要領
- 変速レバーは、必ず主クラッチレバーを放してから操作します。
- 変速レバーが作動しにくい時にはいったん主クラッチレバーをにぎった後、主クラッチレバーを放しもう一度操作します。
- 後進の場合、特に足元に十分注意し低速で運転します。

取扱いのポイント

後進するときは次の指示に従ってください。
- 後方に人や障害物がないことを確認してください。
- エンジン回転を下げてください。
- ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
- 主クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れるようにしてください。
  特に 3 速は車速が速いので、変速操作はエンジン回転数を下げた状態で主クラッチレバーをゆっくりつないでください。
  エンジン回転数が高い状態で主クラッチレバーを急につなぐと、本機が急発進します。



変速表（エンジン回転数 4,000 rpm 時）

変速位置		車速	ロータリ回転数	適応作業
前進	1	0.15 m/s	―	移動、トラックへの積込み、ほ場への出入
	2	0.29 m/s	―	移動
	3	0.94 m/s	―	
作業	1	0.15 m/s	131 rpm	耕うん、培土、中耕、除草
	2	0.29 m/s		
後進		0.34 m/s	―	移動、トラックからの積降ろし、ほ場への出入

• 車速は標準車輪使用時です。

運転

• 主クラッチレバー

主クラッチレバーを操作することにより、本機の走行及び停止が行えます。

主クラッチレバーの握りかたは、下図の３とおりあります。作業内容や身長に合った適正な握りかたで操作してください。

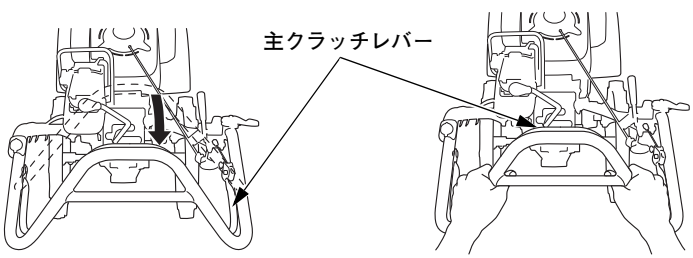
⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ずハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

走行

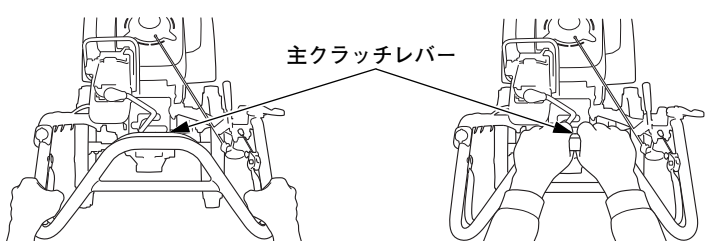
主クラッチレバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。

握りかた１（主な作業：耕うん）

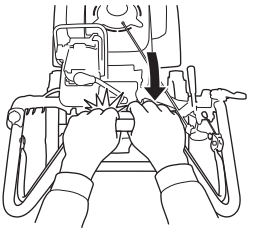


握りかた２（主な作業：中耕、培土）

握りかた３（主な作業：移動、旋回）

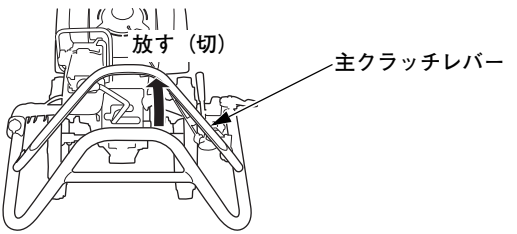


主クラッチレバーを操作するときは、ハンドルと主クラッチレバーで手をはさまないように注意してください。



停止

主クラッチレバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。

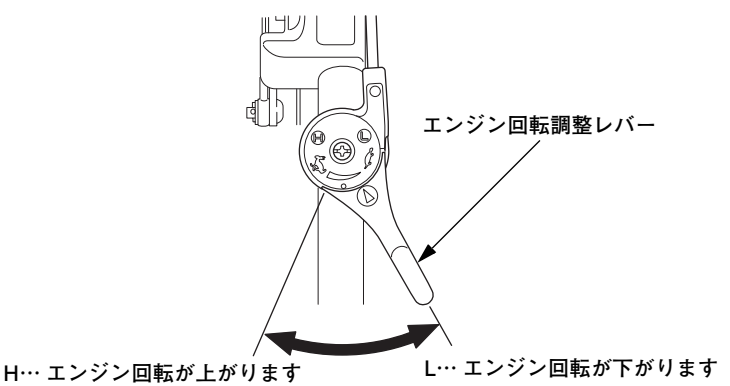


取扱いのポイント

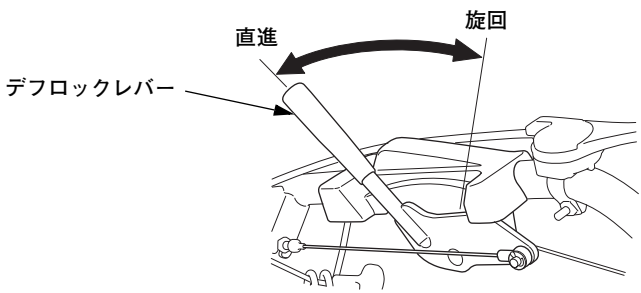
- 主クラッチレバーの操作は、静か（スムーズ）に行ってください。
- 急激な操作を行うと、本機が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

• エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて調整してください。



• デフロックレバー
通常は “**旋回**” の位置で使用してください。旋回性が向上します。
柔らかくて片輪スリップしやすい畑や、片輪だけが耕した所を通る場合に “**直進**” にします。直進性が向上します。
レバーの切替えは主クラッチレバーを “**切**” 位置にし、本機が止った状態にしてから行ってください。



取扱いのポイント

- 移動時はデフロックレバーを “旋回” にしてください。
- 主クラッチレバーを握ったままでデフロックレバーを操作するとデフロック機構が損傷する場合があります。デフロックレバーは主クラッチレバーを “切” の位置にして操作してください。
- 坂道や傾斜地での走行はデフロックレバーを “直進” の位置で行ってください。

• 旋回（移動時）

⚠警告

- 高速運転時に旋回すると本機が急旋回し、走行が不安定となり傷害事故をおこすおそれがあります。
- 上り坂や下り坂では旋回しないでください。坂道で旋回すると思わぬ方向に急旋回したりし、事故、ケガ、本機の故障をまねくおそれがあります。

デフロックレバーを “**旋回**” の位置でエンジン回転を下げゆっくり旋回してください。

耕うん作業

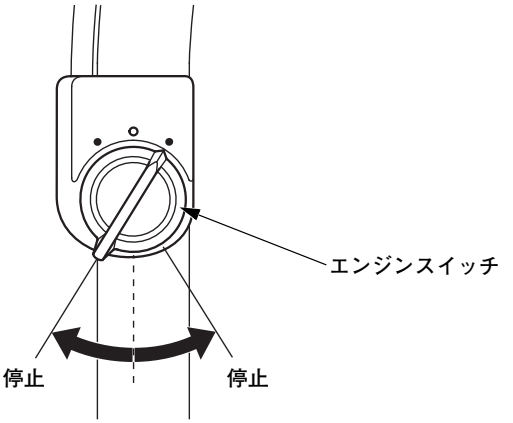
⚠注意
- 一度に深く耕すと本機が急に前に飛び出すことがあります。
- 耕うん中、爪に石などの固い物が当たったりするとハンドルが持ち上がったり、本機が急に前へ飛び出すことがあるので注意してください。
- 本機後方中央に立ち、必ずハンドルを持ってください。
  バランスをくずし思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

- 硬いほ場での耕うんは、一度に深く耕うんしないで２～３回掛けしてください。無理にハンドルを押しつけないでください。
- 旋回するときは：
  主クラッチレバーを放しエンジン回転を低速にします。デフロックを使用している場合は “**旋回**” 位置にしてください。変速レバーを“**前進１速**”にし主クラッチレバーを握りハンドルを押し下げ耕うん爪（ロータリ）が少し浮くようにしてゆっくり旋回してください。旋回が終了したら一度、主クラッチレバーを放し変速レバーを “**作業**” の位置にし、耕うん作業に戻ってください。
- 一度耕うんした後車輪の跡に、片側の後車輪を合わせて耕うん作業すると、起こし残しなく耕すことができます。

エンジンのとめかた

緊急停止の場合

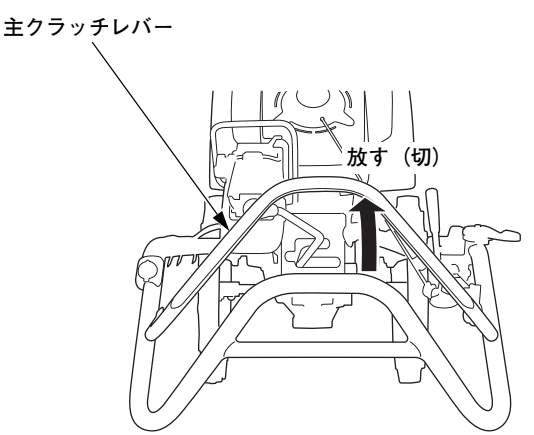
エンジンスイッチを “**停止**” に合わせます。



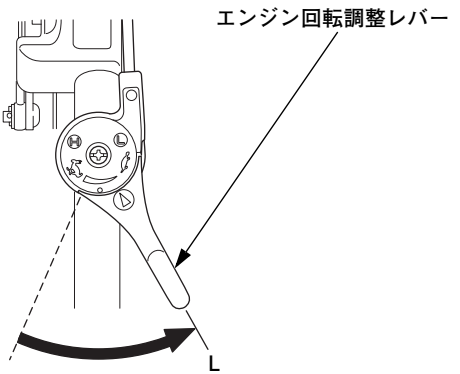
・エンジンスイッチを使って本機を緊急停止させた場合は再び始動する前に変速レバーを “**中立**” の位置にしてください。

通常停止の方法

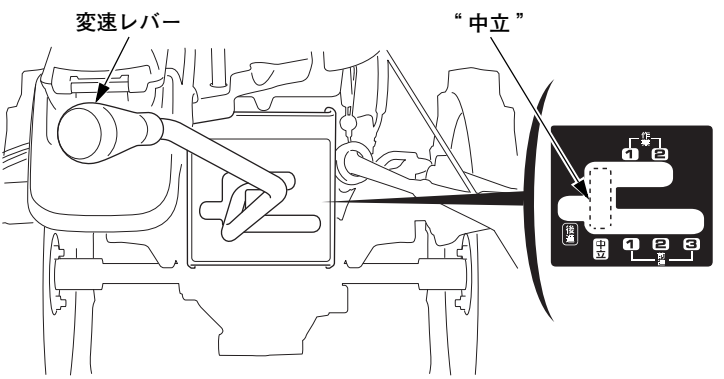
1. 主クラッチレバーを放して “**切**” にします



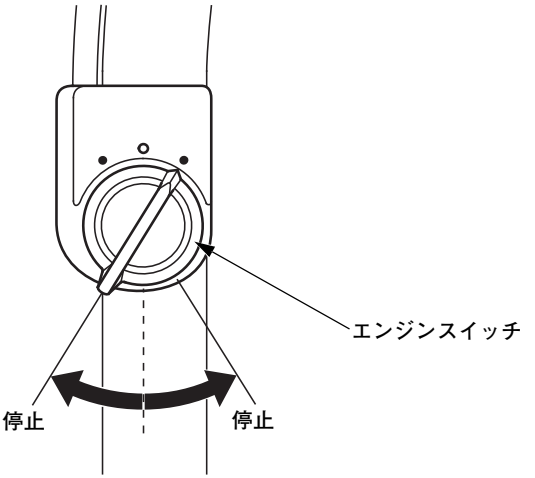
2. エンジン回転調整レバーを “L” の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



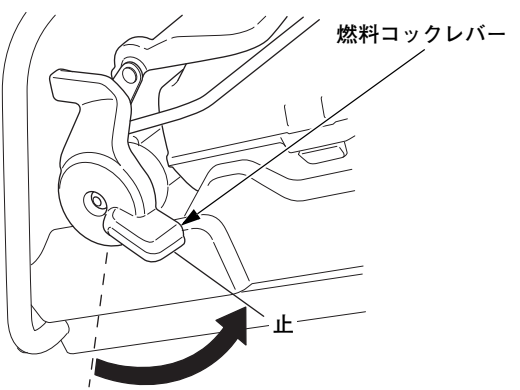
3. 変速レバーを “**中立**” の位置にします。



4. エンジンスイッチを “**停止**” に合わせます。



5. 燃料コックレバーを “**止**” に合わせます。



6. 引き続き本機を使用しない場合は、「カセットボンベの取外し」、換気の良い場所で「配管内の残留ガス使いきり」を行います。

1)「カセットボンベの取外し」を行います。(29 頁参照)
- 取外したカセットボンベは、ボンベ付属のキャップを取付け、４０℃以下の日陰に保管してください。

2)「配管内の残留ガス使いきり」を行います。
- 1. カセットボンベが取外された状態で、燃料コックレバーを “**出**” にします。(39 頁参照)
- 2. エンジンスイッチを “**運転**” の位置にします。(40 頁参照)
- 3. 始動グリップを引いてエンジンを始動し（41 頁参照)、アイドル回転で、エンジンが停止するまで運転します。
- 4. エンジンが停止したら、エンジンスイッチを “**停止**” の位置に合わせます。(51 頁参照)
- 5. 燃料コックレバーを “**止**” に合わせます。(51 頁参照)

定期点検を行いましょう

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行ないましょう。

定期点検表

点検項目 ＼ 点検時期（1）		稼働期前	作業前点検	1ヶ月目または初回20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	4年毎	参照頁
エンジンオイル	点検、補給		○						30, 31
	交換	○		○		○（4）			54
エアクリーナー	点検		○						32
	清掃				○（2）				57
	交換						○		57
本機のまわり	点検		○						21
主クラッチレバーの作動	点検		○						21
レバー類の作動	点検		○						21
各部の締付け	点検		○						21
ハンドル高さ調整ダイヤルの締付け	点検		○						37
配線、ケーブル類	点検		○						21
エンジンの始動、停止	点検		○						21
口金Oリング（逆止弁）	点検		○					○（3）（6）	26
変速機オイル	点検	○							59
クラッチケースオイル	点検	○							58
クラッチシュー	点検						○（3）		－
点火プラグ	点検、調整						○（3）		－
エンジン回転調整ケーブル	点検、調整						○		60
主クラッチケーブル	調整			○		○			61
デフロックレバーケーブル	調整			○		○			62
アイドル回転	点検、調整						○（3）		－
吸入、排気弁のすき間	点検、調整						○（3）		－
燃焼室	清掃	300時間運転毎（3）（5）							－
負圧チューブ	点検	2年毎（3）（6）							－
燃料チューブ（低圧/高圧/ベーパライザ）	点検	2年毎（3）（6）							－
レギュレーター	ドレン							○（3）	－

（1）点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
（2）ホコリの多い所で使用した場合､エアクリーナーの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
（3）適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
（4）高負荷、高温で使用した場合、エンジンオイルは 50 時間運転毎に交換してください。
（5）表示時間を経過後すみやかに実施してください。
（6）傷、亀裂があれば交換してください。

点検・整備のしかた

作業を始める前に、作業内容を確認ください。ご自身で実施できない場合、お買いあげ販売店またはサービス店に相談ください。

⚠警告

点検、整備は平坦な場所で必ず本機からカセットボンベを取外し、エンジンを停止させ、誤ってエンジンが始動しないように、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外して行ってください。(55 頁参照)

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

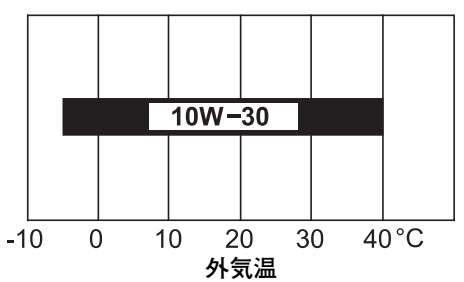
本機を横倒しにしないでください。オイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。

17 mm のレンチ類をご用意ください。レンチ類は装備されていません。

《推奨オイル》
Honda 純正ウルトラ U 汎用(SAE 10W-30)または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

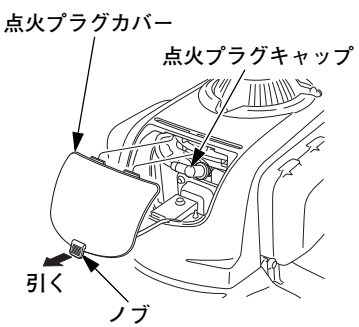
《エンジンオイル量》0.26 L

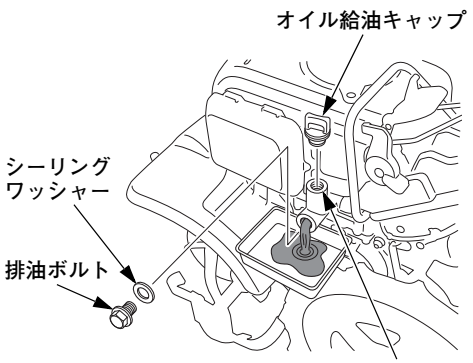
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

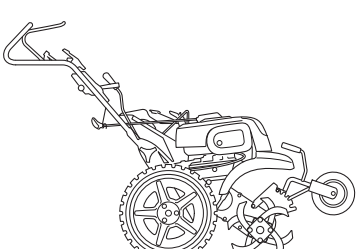


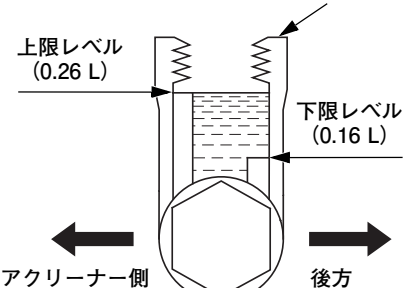
交換のしかた

1. エンジンを停止させ、本機からカセットボンベを取外し（29 頁参照）、換気の良い場所で「配管内の残留ガス使いきり」（52 頁参照）を行います。
2. エンジンカバーの前面にある点火プラグカバーのノブを引っぱって外し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外します。
3. 平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリ）と後車輪が接地した状態にします。
4. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜き、適切な容器に受けます
5. 排油ボルトを洗い油できれいに洗い、新品のシーリングワッシャーを使用し、確実に締付けます。
6. 平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリ）と後車輪が接地した状態にして新しいエンジンオイルを給油口のレベル位置で確認しながら上限まで注入します。









7. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。

取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ず平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリ）と後車輪が接地した状態にして、オイルを給油してください。
- 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

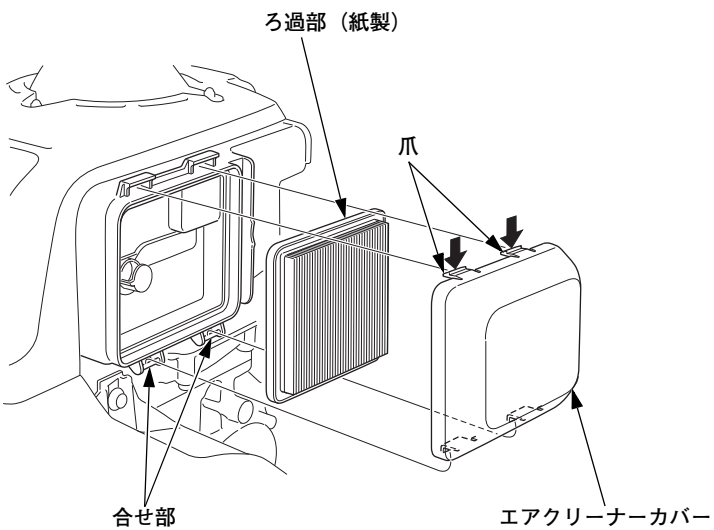
8. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。
9. 点火プラグカバーをエンジンカバーへ取付けます。

エアクリーナー（空気清浄器）の清掃

エアクリーナー（空気清浄器）が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

清掃のしかた

1. エアクリーナーカバーを取外し、ろ過部を取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を離して行います。
2. ろ過部（紙製）は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。
   汚れがひどい場合は交換してください。



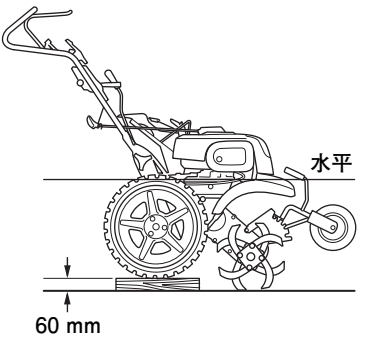
取扱いのポイント

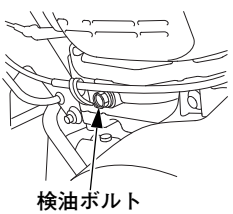
- エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナーカバーやろ過部を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

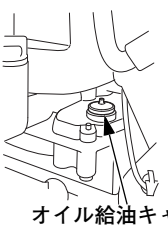
クラッチケースオイルの点検

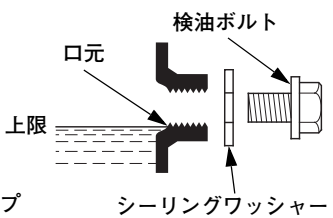
点検

1. エンジンを停止させ、本機からカセットボンベを取外し（29 頁参照）、換気の良い場所で「配管内の残留ガス使いきり」（52 頁参照）を行います。
2. エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外します。（55 頁参照）
3. 平坦な場所でエンジン締付け座面を水平（耕うん爪を接地させて後車輪を 60 mm 浮かせた状態）にします。
4. 検油ボルトを外し、検油ボルト穴の口元までオイルがあることを確認します。少ない場合は補給してください。









補給

指定オイル：　Honda 純正ウルトラ LEO（SAE 0W-20）
または API 分類 SL 級相当の SAE 0W-20 オイルをご使用ください。

クラッチケースオイル容量：0.2 L

5. オイル給油キャップを外し、新しいオイルを検油ボルト穴の口元まで補給します。
6. 補給後、オイル給油キャップ、シーリングワッシャーと検油ボルトを確実に取付けてください。
7. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。
8. 点火プラグカバーをエンジンカバーへ取付けます。

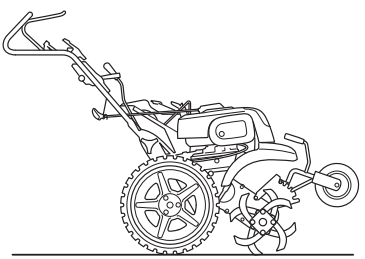
取扱いのポイント

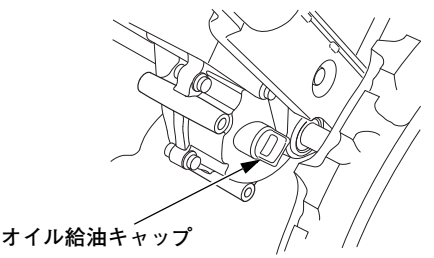
オイル給油キャップは確実に取付けてください。取付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

変速機オイルの点検

点検

1. エンジンを停止させ、本機からカセットボンベを取外し（29 頁参照）、換気の良い場所で「配管内の残留ガス使いきり」（52 頁参照）を行います。
2. エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外します。(55頁参照)
3. 平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリ）と後車輪が接地した状態にします。
4. オイル給油キャップを外し、口元までオイルがあることを確認します。少ない場合は補給してください。



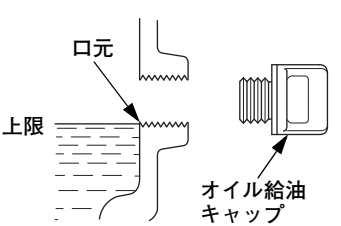


補給

指定オイル： Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

変速機オイル容量 : 1.8 L

5. 新しいオイルを口元まで補給してください。
6. 補給後、キャップは確実に締付けてください。
7. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。
8. 点火プラグカバーをエンジンカバーへ取付けます。

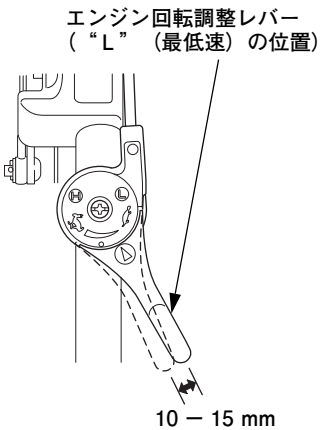


取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

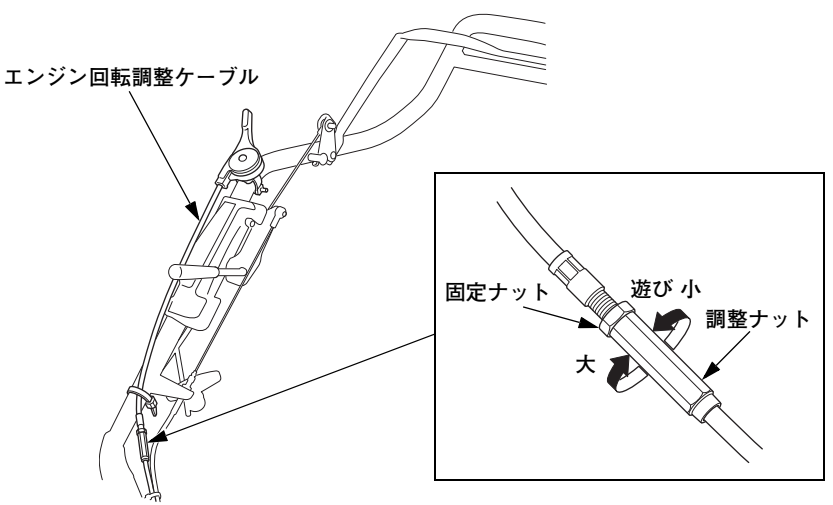
エンジン回転調整ケーブルの点検・調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。



調整のしかた

1. エンジン回転調整レバーを“L”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：10 − 15 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめて調整ナットをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

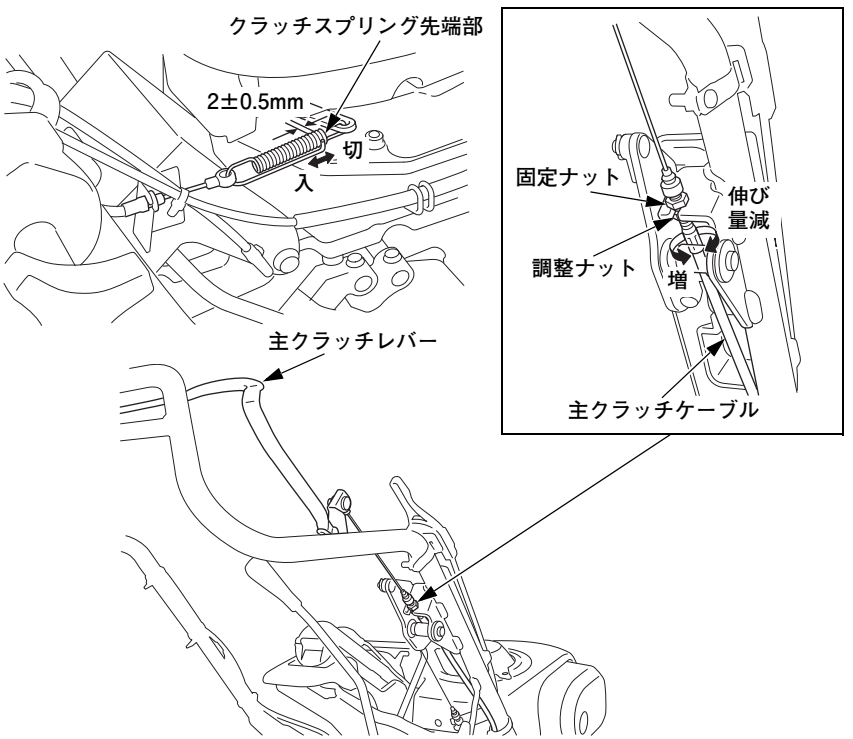


主クラッチケーブルの調整

主クラッチケーブルの調整が完全でないと、主クラッチの切れが悪くなったりクラッチがすべったりします。

調整のしかた

1. 主クラッチレバーを “**切**” の位置から “**入**” の位置にしたとき、クラッチスプリングの伸び量が下記寸法になるように調整します。
   伸び量のめやすはクラッチスプリング先端部がクラッチスプリングひと巻き分移動する程度です。
   伸び量：2±0.5 mm
   調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットを回して行います。



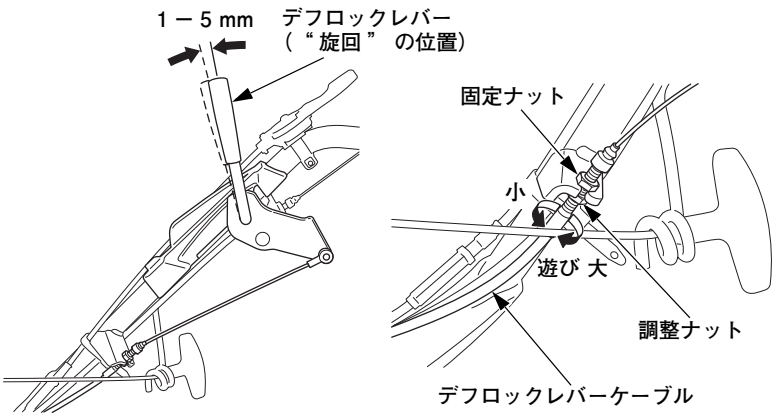
2. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

デフロックレバーケーブルの調整

デフロックレバーケーブルの調整が完全でないと、デフの切替えができなくなることがあります。

調整のしかた

1. デフロックレバーを “旋回” にしてレバーの遊びが、先端で下記寸法になるように調整します。
   遊び：1 － 5 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行います。

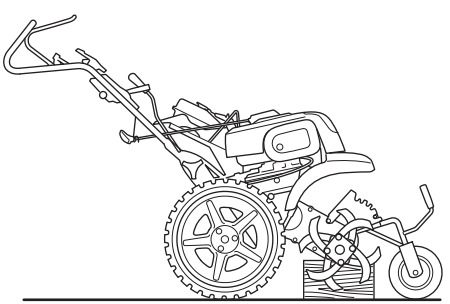


3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

耕うん爪（ロータリ）の点検・交換

⚠注意
- 点検、交換は平坦な場所でエンジンを止め、カセットボンベ、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。(55 頁参照)
- 手にケガをしないよう厚手の手袋を着用してください。
- 万一の落下にそなえて、耕うん爪軸の下に木の台などを置いてください。
- この耕うん爪は、内側と外側の爪が逆回転します。耕うん爪の点検や交換をする場合は爪の動きに十分注意してください。耕うん爪が思わぬ方向に回転しケガをするおそれがあります。
- 耕うん爪の配列や向きを変えると、本機が後方や思わぬ方向に進行し、ケガをするおそれがあります。

- 点検、交換の前に前車輪を運搬・移動の位置にし、耕うん爪（ロータリ）軸の下に台を置くなどして本機を固定します。

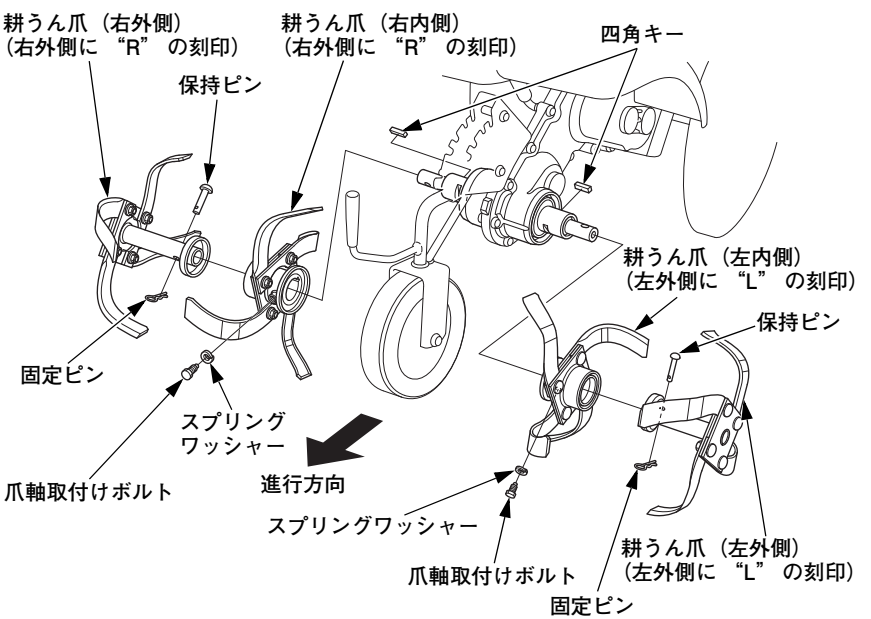


点検のしかた

1. 耕うん爪（ロータリ）の損傷、曲がりがないことを確認してください。もし異常があったときは交換してください。
2. 耕うん爪軸の保持ピン、固定ピンに脱落、変形がないことを確認してください。必要であれば新しいピンと交換してください。
   保持ピンは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

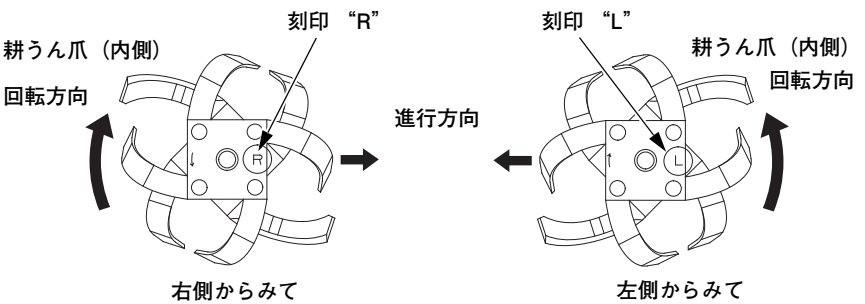
交換のしかた

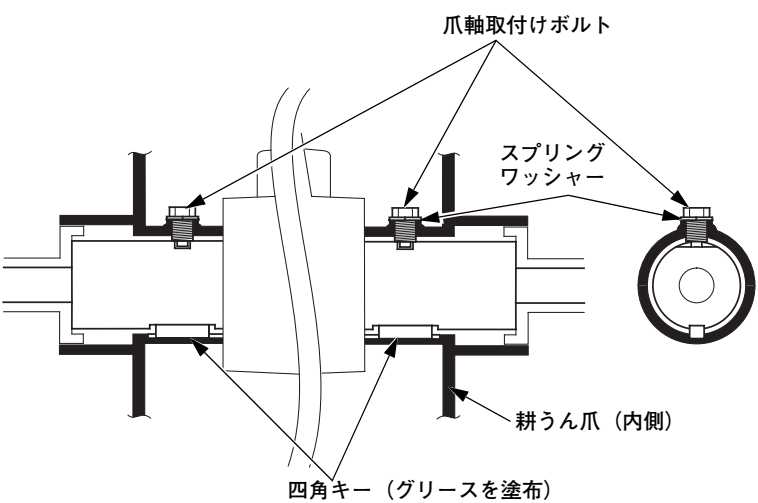
1. エンジンを停止させ、本機からカセットボンベを取外し（29 頁参照）、換気の良い場所で「配管内の残留ガス使いきり」（52 頁参照）を行います。
2. エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外します。（55 頁参照）
3. 外側の固定ピン、保持ピンを外し、外側の耕うん爪（ロータリ）を外します。
4. 爪軸取付けボルト、スプリングワッシャーを外し、内側の耕うん爪（ロータリ）を外します。シャフトの四角キーをなくさないようにしてください。

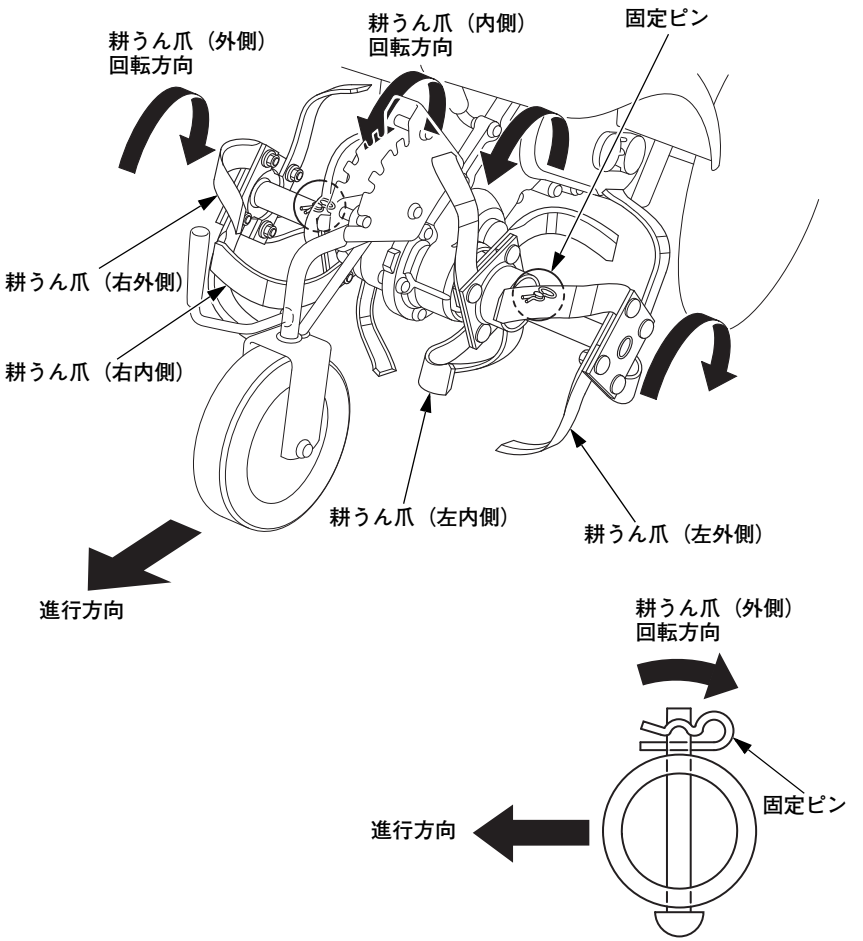


5. シャフトのキー溝に四角キー（グリースを塗布）を入れ、キー溝を合わせて耕うん爪（内側）を取付けます。
   スプリングワッシャー、爪軸取付けボルトで確実に取付けます。
6. 耕うん爪（外側）を取付け、保持ピン、固定ピンを取付けます。

- 耕うん爪にはそれぞれ “R” と “L” の刻印が打ってあります。進行方向に向かって右側には “R”、左側には “L” をそれぞれ外側から刻印が見えるように取付けます。
- 固定ピンは回転方向と逆方向から差し込んでください。







7. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。
8. 点火プラグカバーをエンジンカバーへ取付けます。

使用後の手入れ

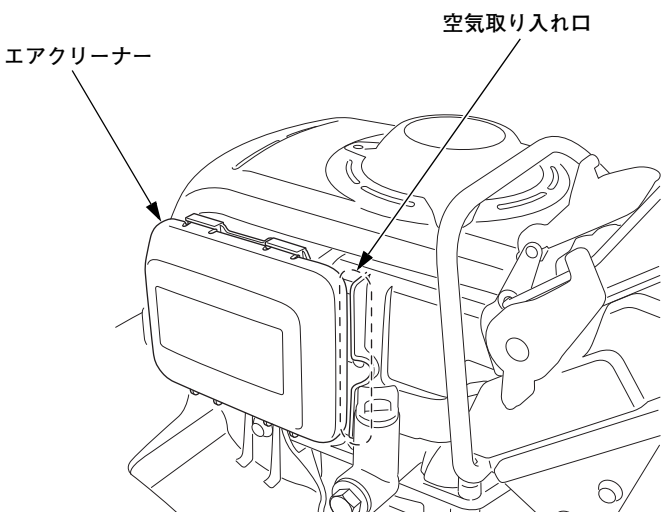
⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

1. 本体や耕うん爪（ロータリ）部分についた土、わら、草や汚れなどを落としてください。
2. エアクリーナーについた土やほこりを落としてください。

取扱いのポイント

洗車する場合はエアクリーナーの空気取入れ口や電装部品、エンジン周りに水がかからないように注意してください。水がかかると故障の原因となります。



長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠注意

- 手入れを行う場合は、平坦な場所に本機を置き（耕うん爪（ロータリ）と後車輪が接地した状態）、エンジンを停止してください。誤ってエンジンがかからないように、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。（55 頁参照）
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてから手入れを行ってください。やけどをするおそれがあります。

1. 本機各部の清掃を行います。

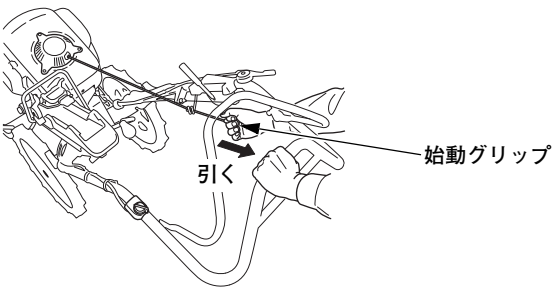
⚠警告

液化ブタンは非常に引火しやすく、また０℃以上では気化するため、引火した場合は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
カセットボンベを取外しするときは

- エンジンを停止してください
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。

2. 本機からカセットボンベを取外します。（29 頁参照）
   取外したカセットボンベは、ボンベ付属のキャップを装着して４０℃以下の日陰で、湿気の少ない場所に保管してください。
3. 換気の良い場所で「配管内の残留ガス使いきり」を行います。（52 頁参照）

4. エンジンオイルを交換します。(交換方法は 54 頁参照)
5. エアクリーナー (空気清浄器) を清掃します。(清掃方法は 57 頁参照)
6. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジンバルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。)



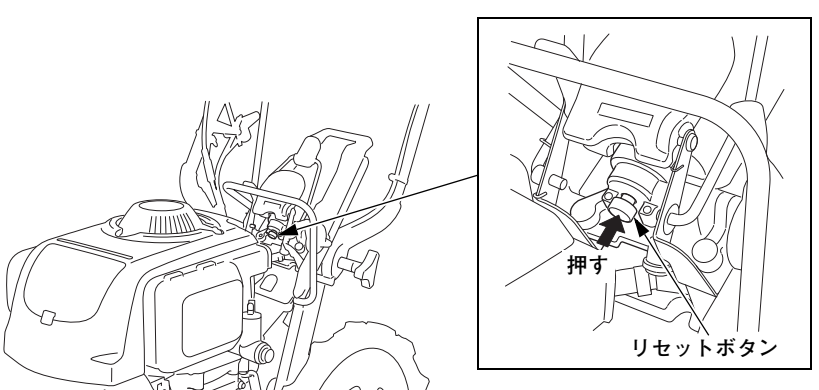
7. 主クラッチレバーを “**切**” にします。
8. シートなどをかけ、風通しのよい湿気の少ない所に保管してください。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 外気温度は５℃以上ありますか？
   ブタンガスの特性上、外気温度が５℃未満の場合は、エンジンが始動できないおそれがあります。
2. 圧力検知弁が作動している可能性があります。解除作業を行ってください。
   カセットボンベを本機に取付けたまま保管すると、圧力検知弁が作動する場合があります。圧力検知弁が作動中はエンジンが始動できません。リセットボタンを押して圧力検知弁の作動を解除してください。（解除作業は 71 頁参照）
3. 燃料コックレバーは “**出**” になっていますか？（39 頁参照）
4. エンジンスイッチは “**運転**” になっていますか？（40 頁参照）
5. カセットボンベにガスはありますか？（24 頁参照）
6. ガス漏れ（臭気）はありませんか？
   本機周辺からガス漏れ（臭気）がある場合は、お買いあげ販売店にお問い合わせください。
7. エアクリーナーは正しく取付けてありますか、またろ過部は目詰まりしていませんか？（32 頁参照）
8. 点火プラグキャップは、確実に取付けてありますか？（55 頁参照）



エンジンが突然停止してしまったときは次の点を確かめましょう

1. カセットボンベにガスはありますか？（24 頁参照）
2. 圧力検知弁が作動している可能性があります。解除作業を行ってください。

《圧力検知弁の作動》

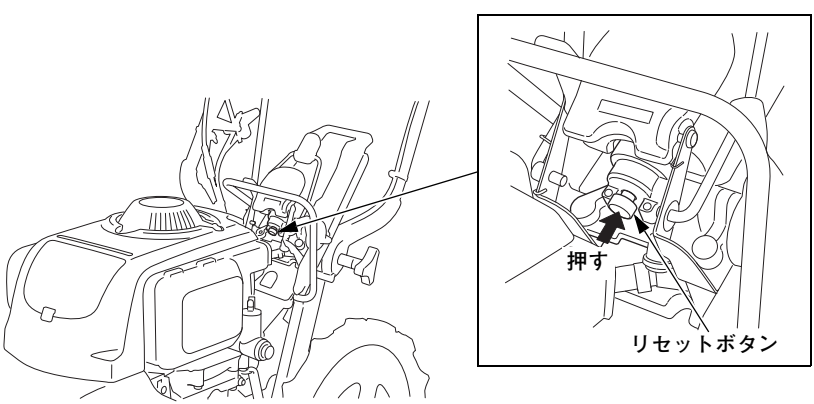
カセットボンベ（配管）の圧力が設定圧を超えると、圧力検知弁が作動し燃料通路を遮断して、エンジンが停止し再始動できません。

- 外気温が 40 ℃を超えている場合、カセットボンベ (配管) のガス圧力が高まり、圧力検知弁が作動しやすくなります。
- 外気温が 40 ℃以下でも、圧力検知弁が頻繁に作動する場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

《解除作業》

圧力検知弁の作動状態は、リセットボタンを押すことで解除されます

- リセットボタンを押してもすぐにエンジンが停止する場合は、次の手順で圧力を取り除いてください。
  (1) カセットボンベを取外します。(29 頁参照)
  (2) 燃料コックレバーは “**出**” の位置にします。(39 頁参照)
  (3) エンジンスイッチは “**運転**” の位置にします。(40 頁参照)
  (4) 始動グリップを数回引きます。(41 頁参照)
  もし、エンジンが始動した場合は、停止するまでエンジンをアイドル回転で運転します。
  (5) リセットボタンを押します。
- 圧力を取り除いてもエンジンが始動しない場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

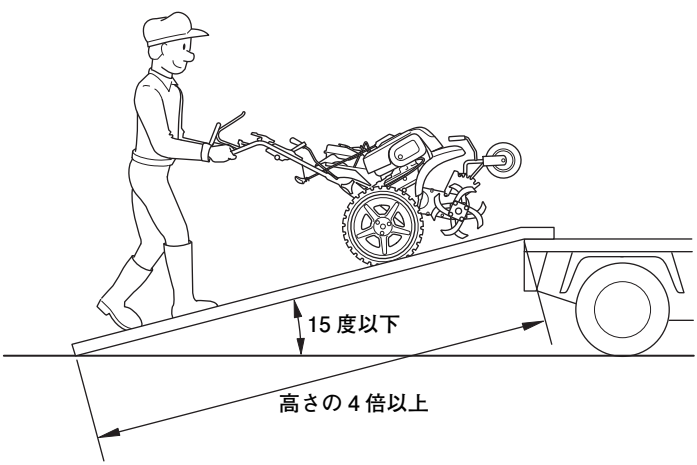


車への積載のしかた

車の荷台への積載

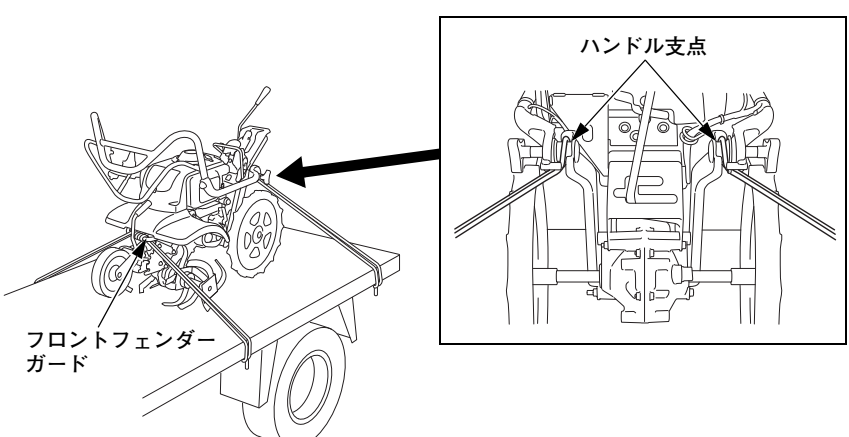
⚠警告
車（トラックなど）への積み降ろしをする場合は、必ず本機、作業機の重量に十分耐えられるアユミ板を使用し、1速で行なってください。転倒や落下によりケガをするおそれがあります。

1. 本機の寸法および重量の積載を満たす車（トラックなど）を使用してください。
2. 車（トラックなど）への積み降ろしは平坦な場所でアユミ板を使い転倒や落下に注意して行なってください。
3. アユミ板は、本機、作業機の重量に十分耐えられるもので、本機の傾斜角度が 15 度以下になる長さで、滑り止め、外れ防止フックのついた車輪幅以上の十分な幅がある丈夫なアユミ板を使用してください。（目安として車の荷台の高さの 4 倍以上の長さ）



4. アユミ板は車（トラックなど）に対してまっすぐに、しっかりとかけてください。
5. 車（トラックなど）にアユミ板を平行に並べ、アユミ板幅の中央位置で本機の左右の後車輪と一直線であることを確認してください。

6. 前車輪は最上段に合わせてください。(33 頁参照)
7. エンジンを始動し、2 ～ 3 分間暖機運転を行ってください。
(38 ～ 42 頁参照)
8. 耕うん爪（ロータリ）装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
9. デフロックレバーはかならず “**直進**” にしてください。
10. 積み込みは、前進で、積み降ろしは後進で行ってください。
11. 本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを絶対に放さないでください。
12. 積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れてください。
13. 本機からカセットボンベを取外します。(29 頁参照)
取外したカセットボンベは、ボンベ付属のキャップを装着して４０℃以下の日陰に保管してください。
14. 換気の良い場所で「配管内の残留ガス使いきり」を行います。(52 頁参照)
15. ハンドルをたたみ（23 頁参照)、ハンドル高さ調整ダイヤルを締付けてください。
16. フロントフェンダーガードとハンドル支点部分にロープなどをかけ、本機を固定します。
本機が変形するような過大な荷重でロープを締付けないでください。



17. トラックから本機を降ろすときは、後進で行なってください。後ろ向きで降りるため、後方の安全を十分確認してください。

主要諸元

名称		FFV300
型式		ホンダ FFV300
区分		LT2
機体寸法	全長	1,465 mm
	全幅	465 mm
	全高	1,015 mm
全装備質量（重量）		54 kg
エンジン	名称	GXV57T
	形式	空冷４ストローク単気筒
	内径×行程	45.0 mm×36.0 mm
	総排気量	57.3 cm^3
	連続定格出力／回転速度	0.85 kW (1.2 PS)/4,000 rpm
	エンジン最大出力／回転速度（SAE J1349 に準拠＊）	1.2 kW (1.6 PS)/4,800 rpm
	使用燃料	LPG（液化ブタン）
	エンジンオイル容量	0.26 L
	点火方式	トランジスタ式マグネト点火
	標準点火プラグ	U14FS-UB (DENSO) C4HSB (NGK)
	始動方式	リコイルスタータ
主クラッチ方式		シュークラッチ
変速段数	前進	3 段
	後進	1 段
	作業	2 段

＊ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 4,800 rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

※ 諸元は予告なく変更することがあります。

メモ

メモ

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター
（イイフレアイオ）

フリーダイヤル　0120 － 112010

受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00
〒 351-0188 埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

(1) 製品名、タイプ名
(2) ご購入年月日
(3) 販売店名

この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた販売店**へお申しつけください。

HONDA

The Power of Dreams

30V43602
00X30-V43-6020

Ⓢ Ⓨ FM
ⓒ 2016 本田技研工業株式会社